

認知症作業療法 活動報告 (概要)

北海道作業療法士会では、昨年度より認知症施策推進委員会を発展解消し、地域部認知症施策推進課として事業を継続している。事業内容は①人材育成事業、②広報事業、③調査事業、④渉外事業を4本柱として進めているが、昨年度は新型コロナウイルスの影響により、研修会は重点課題研修のみの開催に留まった。一方、調査・広報事業として「作業療法士が関与する認知症施策の実践事例集」を発刊するに至った。事例は9事例、トピックス3例からのスタートではあるが、今後もアップデートしていく予定である。

人材育成事業

昨年度は、重点課題研修として「認知症の人の働く地域支援」をテーマに、北海道で開催された「注文を間違えるレストランin石狩を中心に」についてのリモート研修を実施した。今年度は、「認知症高齢者の食べる喜びを支える摂食嚥下リハビリテーション」についてリモート研修会を開催する予定である。

広報

2019年度より行っていた会員向けへの家族会コラムを、今年度より道士会地域部他課と協業して継続している。またコラムの波及効果として認知症の人への地域支援の講演依頼に繋がり、作業療法士以外の関連職種との関係を築く一助となっている。

昨年度は、世界アルツハイマー月間に合わせて、市立図書館の毎月祭事コーナーに認知症関連の書籍を展示させて頂いた。図書館利用者の関心は高く、認知症の人への理解を進める一つの機会となった。

作業療法士が関与する認知症施策の実践事例集事業

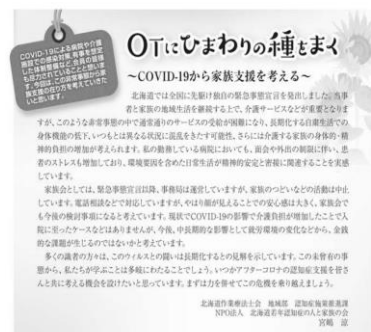
道内の作業療法士の実践事例について、GoodPractice(GP)を用いてまとめた本事例集は、認知症施策に作業療法士が関与する際の参考にする目的で令和3年3月に発刊した。

今年度は本事例集を用いて普及啓発を行う。会員に対してはHPからのDLでの配布を行い、北海道、市町村及び地域包括支援センターに対しては冊子の配布を行う。さらに、他職種や住民向けに本事例集を使用した研修や講話を行うなど、道民に対する公益的な事業について、企画・検討を進めている。

また、新たな実践事例についての調査を行い、事例の追加を予定している。

今後の展開

昨年度はアップデート研修を見送ることとなったが、今年度はリモート開催も視野に入れて、新たな研修会スタイルを検討中である。また、認知症カフェなど現地参加型の研修会も状況に応じて開催していく予定である。一方、これまでの研修会参加者に対するアンケート調査結果を裏付けとした、実施可能な新規事業の企画検討を進めていく予定である。



家族会関連コラムの一例



図書館入り口の設置状況

北海道における

作業療法士が関与する

認知症施策の実践事例集 Ver.1.0



認知症施策の実践事例集表紙

認知症に関する活動計画（概要）

青森県作業療法士会では、①認知症作業療法の普及啓発活動、②認知症に対応できる作業療法士の人材育成、③認知症初期集中支援事業の3本柱で計画している。

認知症作業療法の普及啓発活動の一つである『認知症スタンプラリー』はパネル掲示とし、人との接触を出来るだけ避ける形で開催した。人材育成のための研修会もオンラインで開催するなど、コロナ禍でも出来る活動を考えて3本柱を達成できるように取り組んでいく。

認知症スタンプラリー

今年度は、新型コロナウイルス感染予防対策として、対面式ではなくパネル掲示にて認知症について学ぶ場を設けた。昨年度はイベント活動が皆無だっただけに、他の専門団体から「やっぱりこうやって一緒にイベントを作るのは楽しいね」と共感を得られた。作業療法士らしく、作製したスタンプ自助具も好評であった。

足踏み式スタンプ
(自助具)



協力いただいた
多くの専門団体

認知症の人と家族の会との連携事業

『つどい』に継続して参加している。今年度も認知症フォーラムや世界アルツハイマー・デーのイベントは中止となった。認知症スタンプラリーの企画や運営に携わって頂き、顔の見える化に繋がっている。

4コマ漫画作製、地方紙掲載で普及・啓発

介護予防に関する新聞記事の依頼があり、山形県士会の4コマ漫画をヒントにして、青森県版のストーリーを作業療法士が構成し、新聞社編集局でイラストを作製してもらった。地方紙紙面に大きく掲載され普及につながった。

第2回 認知症スタンプラリー!

スタンプラリーを通して認知症のことや支援してくれる人達を知ることができます!
老若男女どなたでも楽しめます!

スタンプを集めて景品がもらえる!

日時 **令和3年5月30日(日) 10時~15時**

場所 **八戸ポータルミュージアムはっち 1階 はっちひろば**

雨天決行(屋内) すべて無料 申し込み不要

栄養について

薬について

支援について

予防について

関連団体の情報をパネルに展示します!

マスクをして
いってよう力!

共催: 一般社団法人 青森県作業療法士会 / 八戸市 / 青森県若年性認知症総合支援センター / 一般社団法人 八戸薬剤師会
協力: 青森県栄養士会 八戸地区会 / 公益社団法人 認知症の人と家族の会 青森県支部 / 八戸市レクリエーション協会 / はちのへ認知症疾患医療センター

お問い合わせ 一般社団法人 青森県作業療法士会 (担当 笹原 0178-61-0606)



認知症の人への作業療法

料理が上手でできなくなった人 編

認知症に関する活動計画（概要）

岩手県作業療法士会では、事業局 地域支援部地域包括ケア推進員会 認知症班として活動している。

県士会員の認知症者対応に関するスキルアップ研修、一般や他団体への啓発活動、行政との連携を中心に活動を計画している。

また、同委員会 介護予防班で作成した介護予防マニュアルについても、認知症対応に関する項目を追加する予定である。

認知症者対応に関するスキルアップ研修

2019年度から、9つの各支部ごとで認知症作業療法アップデート研修が開催できる様に、人材を育成するための研修を開催してきた。そのうち、3つの支部で支部単位の研修が開催出来た。

また、認知症作業療法に対する関心のある支部から、出前講座の依頼を受けた。「明日から活かせる情報」と希望があったため、アップデート研修のカリキュラムから、BPSDと認知症者に対するアセスメントの章を抜粋し研修を行った。

一般や他団体への啓発活動

JAいわて花巻より「通所介護とリハ職の連携」のタイトルで研修依頼を受けた。介護予防班と連携し、アップデート研修の内容を交えた研修を開催した。

行政との連携

岩手県若年性認知症支援ネットワーク会議への出席依頼があった。岩手県基幹型認知症疾患医療センターや盛岡市長寿社会課などが主催しているが、２０２０年度は書面開催となった。今後も、若年性認知症者に対する支援のあり方やコロナ禍におけるオンラインを活用した家族会の検討などが話し合われる予定である。

COVID-19（新型コロナウイルス）の影響・対応など

2020年度の研修や班会議の開催は、Web
会議システム（ZOOM）を活用している。

RUN伴や認知症カフェ祭り等の他団体協力事業は、協賛や運営協力の調整を進めたが、全て中止となった。

(公財) いきいき若手支援財団助成事業

令和2年度

「もりおか認知症カフェ連絡会」研修会

認知症の人やその家族が安心であり、前向きな生活を地域で継続していくための社会資源について、認知症カフェについて理解を深め、その普及促進と定着を推進することを目的とし、又、認知症の予防からその暮らし方を、関係者となる方への診断、社会支援の在り方、留意点などを詳しく実行を行った人々の経験とその在り方を関係者となる方へ伝える。

令和3年 1月30日(土) 13時～16時30分

会場 ▶ 盛岡劇場 1階メインホール 盛岡市東町1-1

プログラム(内容)

12:30～13:00 開場

13:00～13:10 開会挨拶:主催者代表

13:10～14:30 **【講演会】**

『「人らしさとは何か。認知症を脳科学から考える。」』
講師: 恩恵 純子氏

14:30～14:45 休憩

14:45～16:30 **【シンポジウム】「誰もがこの国で尊厳をされて生きる為に」**

司会: 14:45～15:15
「開く！開きたい！と暮らしを」と
講師: 丹野 智文氏

15:15～16:30 **グループセッション**

16:30 開会挨拶

研修会が定例
**岩手県盛岡市と
県内外市町村の地域
住民、関係者等
150名**



盛岡市役所
盛岡市役所
盛岡市役所



シンポジウム
丹野 智文氏



グループセッション
丹野 智文氏、久美 美知子氏、丹野 智文氏

協賛金 実質 150名 シンポジウム 実質 **150名**

お申し込み先 盛岡市長民社会課 Fax 019-653-2839

問合せ先 もりおか認知症カフェ連絡会 久美 美知子 電話 090-7799-0941

研修会が定例

研修会が定例

研修会が定例

研修会が定例

研修会が定例

研修会が定例

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、マスクの着用、手洗い、消毒の徹底をお願いいたします。



お申し込み先
盛岡市長民社会課



研修会が定例
盛岡市長民社会課



研修会が定例
盛岡市長民社会課

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、マスクの着用、手洗い、消毒の徹底をお願いいたします。



お申し込み先
盛岡市長民社会課



研修会が定例
盛岡市長民社会課



研修会が定例
盛岡市長民社会課

認知症に関する活動計画（概要）

特にございません。

世界アルツハイマー・デーでのイベントの企画

特にございません。

認知症の人と家族の会との連携事業

特にございません。

COVID-19（新型コロナウイルス）の影響・対応など

認知症カフェの実施の際、アルコール消毒やマスクの着用、三蜜の回避など基本的な感染対策を徹底した中で行っております。また感染状況を鑑みて随時開催の可否を検討しております。

認知症カフェ事業への参画

大河原町と仙台市で開催している認知症カフェに参画。大河原町では週一回、直営の地域包括支援センターが運営する認知症カフェに参画。地域の薬剤師とOTが主体となり、はつらつメイト（介護予防サポーター）と共同し携わっている。一方、仙台市では月一回、仙台市薬剤師会と介護専門職、宮城県作業療法士会の共催で運営。いずれのカフェも、コロナ禍では飲食物の提供・人数制限などの感染対策を取りながら、ミニ講話・作業活動・軽体操等を通じて参加者同士の語らい・支えあいに重きを置いた取り組みを行っている。また、認知症介護研究・研修仙台センターが仙台市からの委託を受け認知症カフェ支援事業の一環として開催している「認知症カフェ企画・運営者会議」に昨年度より参加の機会を頂き、市内で開催されている多認知症カフェ運営者の方々と開催・運営状況に関する情報交換や今後認知症カフェを継続・普及させていくための方策について意見交換を行っている。

認知症に関する活動計画（概要）

秋田県作業療法士会では、年1回の認知症基礎研修と、年1または2回の事例検討会を行っている。事例検討会は、各地域での様々な取り組みの周知や、横のつながりの強化も目的の一つとして行っている。

これまでの研修会でのアンケート結果から、研修会への参加は県中央部での開催だけでは参加が難しいとの意見が一部みられた。これを踏まえ、県南での開催し、次は県北の予定であったが、コロナ禍の影響が大きく頓挫したままある。そこで、対面からリモートによる開催へと変更した。この変更は、デメリットだけではなく交通費や移動時間の節約、参加費の無料化(一部)とメリットもたらし、今後もしばらくは年10回ほどの推進委員の会議や研修会、検討会の開催は全てオンラインでの運営を行う予定である。

世界アルツハイマー・デーでのイベントの企画

以前、アルツハイマーデーに合わせて、秋田県理学療法士会からの依頼に応え、コグニサイズの実演や家庭で可能な運動を紹介する資料の配布を行った。これは、主催ではなくあくまで協力した企画であり、継続的な活動には至っていないのが現状である。今年、家族会では、アルツハイマーデーでの企画として介護体験の著者による講演や、世話人との対談など予定されている。

認知症に関わる、自治体や様々な団体とのネットワーク作りを積極的に行い、今後継続した企画運営につなげたい。

認知症の人と家族の会との連携事業

昨年度、家族会が月1回主催する集いの会に参加し、それを機にミニ講話の依頼があり、翌月には作業療法や、家族向けの体操の紹介を行った。3度目の参加後に秋田県でのコロナ対策として、会への参加が厳しい状況が続いている。推進委員の参加は困難な中、幸いにも県士会員が1名正会員として参加を継続しており、必要に応じて専門職の立場からのアドバイスや、ミニ講義が行われている。

COVID-19（新型コロナウイルス）の影響・対応

コロナの影響は、今まで行われてきたほとんどの環境を一変させている。対面で行われてきた推進委員会会議はもとより、事例検討会、認知症基礎研修は全てオンラインでの開催とした。今後しばらくは、現状の対応を続ける予定である。



認知症作業療法基礎研修および事例検討会

8月1日に令和3年度第1回の事例検討会を行った。3症例の事例検討に、特別講演、意見交換会とプログラムのにもより充実させるものとなった。9月には令和3年度認知症基礎研修（アップデート研修）の開催予定である。また、第1回の事例検討会では、参加者より次回の検討会に向けて事例紹介を考えている会員もあり、少しずつではあるが、秋田県においても、認知症作業療法に積極的に関わる作業療法士が増えてきていると実感する。推進委員の活動もよりステップアップしたものを提供できるよう、今後も他県士会や協会からの情報を収集し、秋田県に即した研修会・事例検討会の運営を図りたい。

昨年度下半期の活動報告と今年度活動計画（概要）

山形県作業療法士会における昨年度下半期での活動では、認知症に関する研修事業として、2019年12月に日本作業療法士協会より発行された「認知症作業療法評価の手引き」の普及啓発と実践的な活用方法を学ぶための研修を企画した。

認知症基礎研修事業では、手引きの概要と2013年度から取り組んでいる認知症出前講座の新しいスライド、一般向けの認知症作業療法パンフレットの紹介を行った。また、コロナ禍における認知症支援についてグループワークが行われた（2020年10月4日Web開催にて参加者13名）。

認知症基礎研修事業の上位研修である認知症対応力向上研修事業では、手引きの実践的な活用方法について、手引きを執筆された認知症の人の生活支援推進委員会の村島久美子氏よりご講義いただいた（2021年1月30日Web開催にて参加者23名）。

今年度の活動は、地域における認知症の人とその家族に対する支援や認知症予防等、認知症に関する地域のニーズに応えること、OTの認知症に関する知識と対応力の向上を目的とした人材育成と啓発を目指すことを基本方針として事業を継続して行く。

認知症に関する研修や認知症フォーラム等の事業については、コロナ禍において、感染状況を考慮し、Web開催または感染対策を講じながら対面での開催を検討している。

今年度の認知症に関する研修会

認知症基礎研修会は第1回を8月5日にオンラインで開催した（参加者15名）。内容は、1月31日に開催された日本作業療法士協会「士会における認知症への取り組みを推進する担当者同士の情報交換会」の報告や「認知症の人と家族のためにできること」をテーマとしたディスカッションである。第2回は例年開催している認知症UD研修会をオンラインで開催予定である。

認知症対応力向上研修会では、コロナ禍における作業療法士の認知症の方への取り組みの報告と情報交換会を企画（2021年11月Web開催予定）している。コロナ禍で認知症の人への支援の在り方も変化を余儀なくされている中、各事業所の作業療法士が葛藤や不安を持ちながらも、より良い支援を目指して行ってきた取り組みを共有し、今後の在り方を模索していく。



認知症出前講座、認知症フォーラム、若年性認知症支援、認知症初期集中支援チーム普及啓発

認知症出前講座、認知症フォーラムは感染対策を講じながら、対面開催またはリモートでの開催に向けた準備を継続している。

若年性認知症支援では、認知症の人と家族の会山形県支部による若年性認知症のつどい「なのはな」への支援を継続している。

対面での参加が困難な状況が続いており、リモートでの参加を検討中である。



一般向け認知症作業療法パンフレット

今後の展開

- ・ 認知症の人と家族の会への協力、協働関係の発展
- ・ 県内4支部における、さらなる認知症作業療法の推進
- ・ 地域の行政機関、組織との結びつきを強め、認知症関連の依頼への対応を迅速化

認知症に関する活動計画（概要）

福島県作業療法士会では、地域保健福祉部、介護保険部、支部など組織横断的に認知症に関する活動を実施している。

県基金委託事業

2018年2019年に福島県地域医療介護総合確保基金事業の委託を受けて認知症ケアに携わる人材の育成のための研修会を開催した。2019年は認知症初期集中支援チームの効果的な活動のあり方について基調講演、シンポジウム、事例検討を行った。

福島県認知症施策推進協議会への参画

第2次福島県認知症施策推進計画の策定にあたり、福島県認知症施策推進協議会委員として福島県作業療法士会の代表が協議会に参加し計画について協議した。2021年4月からこの推進計画に従って認知症施策が動き出している。

認知症カフェの運営

福島県作業療法士会会津支部では、認知症カフェを運営している。毎月第2土曜日に地域のコミュニティーセンターで開催し、15名程度の参加を得ていた。いわき支部では作業療法士が中山間地域（3地域）へ訪問してのオレンジカフェ事業を担当している。

認知症初期集中支援事業への参画

県内各自治体から依頼を受けて、作業療法士が認知症初期集中支援事業へ参画している。新型コロナウイルス感染拡大の影響で活動のない自治体がほとんどだった。県士会として活動状況を把握できていないことが課題となっている。

認知症の人と家族の会との連携事業

福島県認知症施策推進協議会委員として協議会に参加した際、認知症の人と家族の会代表も委員として出席していて家族の会の活動について士会で共有する機会を得た。認知症の人と家族の会のパンフレットやリーフレットをいただき、世界アルツハイマーデーや家族の会の活動を広く周知している。

COVID-19（新型コロナウイルス）の影響・対応など

新型コロナウイルス感染拡大により、認知症ケアに携わる人材の育成のための研修会、会津支部の認知症カフェは中止となった。認知症初期集中支援事業は活動できていない。

認知症に関する活動計画（概要）

栃木県作業療法士会では、「地域リハビリテーション推進部・認知症ケア対策推進部門」として「研修事業」を中心に活動している。活動の主な目的は認知症ケアに携わる人材の育成。内容としては、認知症アップデート研修会の他、アップデート研修を受講した方を対象に認知症応用研修会の実施。また、啓発事業としての「RUN伴」への運営面での参加も毎年行っているが、昨年は新型コロナウイルス感染症の影響のため、各活動が十分におこなえていない。

研修事業・COVID-19（新型コロナウイルス）の影響・対応など

H28年度から認知症アップデート研修を開催。
年2回県北地域、県央地域で1回ずつ実施している。
また、R1年度はアップデート研修を受講した方を対象に認知症応用研修会を実施した。
R2年度は県南地域での研修会の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響があり、アップデート研修会は中止。認知症部門単独ではなく、地域包括ケア・介護予防推進部門との共同開催という形で介護予防分野における認知症予防についてのZOOM研修会を実施した。
今年度はアップデート研修会（ZOOM）の開催やアンケートの実施を予定。



認知症の人と家族の会との連携事業

R2年2月にはアップデート研修を受講した方を対象に認知症応用研修会を実施。認知症の人と家族の会や行政からも講師を派遣して頂き、より他機関との連携等も視野に入れた研修内容とした。
昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、研修会を通しての連携事業は行わなかったが、今年度は応用研修会講師協力等で連携を図っていきたいと考えている。



認知症啓発事業

RUN伴2019に県士会として後援。
県士会認知症ケア対策推進委員がエリア長・副エリア長として運営に参加。

RUN伴2020は新型コロナウイルス感染症の影響の為に全国的に中止となったが、SNSを利用して認知症の方にエールを送る活動を県内実行委員を中心に行なった。2021年度も昨年同様県内実行委員を中心に行なう活動を継続している。



認知症に関する活動計画（概要）

群馬県作業療法士会では、「地域作業療法推進部認知症支援推進グループ」として

- ◎県内認知症ケア資質向上のための研修事業
- ◎家族会支援にむけた連携強化、取り組み
- ◎認知症初期集中支援チームに資する人材育成事業の検討
- 県内OTの認知症対応能力向上（グッドプラクティスの集積および集積結果の周知）
- 認知症ケアパスについての研究、啓蒙
- 県内のOTの認知症支援活動の調査

※◎は実施中、○は計画中

世界アルツハイマー・デーでのイベントの企画

毎年9月に、県士会HPに世界アルツハイマー・デー月間として、当グループの活動内容をまとめた資料を掲載している。

一般社団法人 群馬県作業療法士会
健康増進のためのワンポイントアドバイス Vol.6

身の回りのケア

①感染対策

高齢者は基礎疾患をもっていることが多く、リスクが高いです。また、認知症の人は新型コロナウイルスの感染が拡大している事態を忘れてマスク外してしまうこともあります。

- ☞手洗い・うがいなどの感染予防をさびげなく促しましょう。
- ☞マスクもしよう
- ☞うがいもしよう

②関わり方

家族との同居時間が増えると、互いの言動に気になる点が増えます。無意識にストレスを感じている場合もあります。失敗や苦手な事は指摘せず、さりげなくフォローして得意な作業を促します。

☞服薬の管理など、承認時や服薬カレンダーなどの活用を工夫します。

☞いつも以上に、感謝の言葉を声をかけることを心がけてみてください。

隠れている方は電話やオンラインの活用も！

ルーティン

外出制限により今まで行っていた社会的交流の機会が減ります。

①今まで通りの生活や社会的交流の維持

☞ゲートボール、デイサービスなどはできれば継続が望ましいです。

☞生活リズムが崩れやすいので、毎日同じ時間に寝起きしましょう。

③運動の継続

☞暑さを防ぎやすいので、これからの時期は暑い日中を避けて、朝晩の散歩を促しましょう。

④役割の継続

☞意欲や認知機能の維持には、家庭内の役割継続が重要です。そして役割に対する感謝も忘れずに！

環境作り

①落ち着いた空間作り

☞食事や活動に集中できるよう、周囲に置くものを最小限にしましょう。

☞テレビやラジオなどは情報選択の妨げになることもあります。

大切な要件を伝える時などは、静かな環境が望ましいです。注意は記憶と密接に関係します。

☞採光が増えたら、大切な物品の置き場を決めましょう。

この機会に整理整頓をしましょう。

②時間の感覚

☞家に長くいると季節を感じにくくなります。

☞日付や時間が目に入り、季節が感じられる工夫をしましょう。

☞日めくりカレンダーは季節時タイプをおすすめします（紙は間違えたと混雑します）。

本資料の無断転載はご遠慮ください



8/1 12:00
(土) 午後

一般社団法人群馬県作業療法士会主催研修会開催のご案内 認知症ケア資質向上のための研修

本研修は、認知症ケアに必要な知識や技術に関する研修を通じ、地域における認知症高齢者の介護サービスの質を向上することを目的としています。

現在我が国では、超高齢社会を迎え、施設や地域で生活の場で、介護予防の視点から専門的見地から適切な認知症ケアを提供することが求められています。そこで、今回、認知症ケアに関わる人材の資質向上や、認知症予防・ケアに関する応用能力を向上することを目的として、介護福祉士、介護支援専門員、保健師、看護師、リハビリ職、社会福祉士、介護施設・事業所の管理責任者などを対象とした研修会を2回開催することとなりました。

今後、地域で生活する軽度認知症者が増加すると共に、認知症になっても在宅生活が継続できるような支援が求められています。本研修を通じて、認知症に関する最新の知識や実践的な技術を一緒に学んでみませんか。

第1回研修会：令和3年11月13日（土）12：45～
～認知症の基礎知識と笑顔を引き出す活動学び
ケアのヒントを見つけよう～

【開 会】12：40～12：45（受付開始12：30～）

【講義1】12：45～13：15

講師：高原 きよ美氏（群馬県健康福祉部健康長寿社会づくり推進課）
「群馬県の認知症支援のニーズ」

【講義2】13：15～14：45

講師：石田 電生氏（一般社団法人介護エンターテイメント協会）
「認知症の人の笑顔を引き出す活動」

【講義3】15：00～15：50

講師：大澤 誠氏（大井戸診療所）
「認知症の障害の本質と認知症原因疾患への理解」

【講義4】16：00～16：50

講師：大澤 誠氏（大井戸診療所）
「行動・心理症状(BPSD)の原因・背景および障害構造の理解」

【閉会】16：50～17：00

【研修会の方法】Zoomオンライン開催（参加者に後日IDを配布）

先着100名様
参加費無料

※当研修会は、令和3年度群馬県地域医療介護総合確保基金事業費補助金の一部助成を受けて実施されています。

認知症の人と家族の会との連携事業

認知症の人の家族の会つどい（月1回）に当グループ部員が参加し、相談事業を行っている。

今後相談の際に、より有益な情報を当事者家族に伝えられるように、部員の勉強会を実施したり、認知症当事者のための資源マップ作りを企画している。

COVID-19（新型コロナウイルス）の影響・対応など

2020年5月より、地域作業療法推進部の他の3つのグループ（発達・精神・地域支援推進グループ）と共同で、左図の様な『健康増進のためのワンポイントアドバイス』を発行した。

認知症作業療法 活動報告（概要）

埼玉県作業療法士会では、地域支援の基盤強化を目指し、認知症専門研修やオレンジカフェの支援を行っている。また、認知症の人と家族の会との連携も継続しており、若年のつどいやオレンジリング絆フェスイベントに協力している。

コロナ禍において、研修はすべてオンライン研修に切り替え、地域支援は感染対策を講じつつも参加が厳しい状況が続いている。このような状況下でも、支援が継続できるような方法を模索している段階。

認知症専門研修（基礎・応用コース）

対面研修からオンライン研修に変更。基礎コースを2回に分け（前編・後編）夜間に短時間での研修とした。受講者は50名前後で、初めてのオンライン研修であったがスムーズに開催できた。

応用コースは京都府士会とのコラボ研修を実施。京都府士会と埼玉県士会の地域支援の取り組みを紹介し、地域支援の大切さや楽しさをアピールする研修会となった。

認知症の人と家族の会との共催

コロナ禍のため、「若年のつどい」への県士会員の派遣が難しい状態が続いている。

昨年度より、RUN伴をきっかけにはじまった、「オレンジリング絆フェス」に協力団体としてポスター作成や広報で関与している。



オレンジカフェの実施

昨年に引き続き、一部のカフェにのみ人数を制限し会員を派遣。Zoomを使用し、4か所を同時中継しながらのカフェを運営するなどコロナ禍に合わせ柔軟な支援を模索している段階。



これでいいのだバンド！垣根を超えた水平な関係作り

当事者、専門職、年齢など関係なく音楽好きな仲間とのバンド結成。LINE等のSNSにてバンドメンバーとの繋がりは継続できている。顔を合わせての練習が難しいため、オンラインでの練習やメンバーひとりひとりの動画を組み合わせて1つの動画を作成するなど、コロナ禍においても関係性の継続に力を注いでいる。



認知症リハビリテーション専門職研修

H25年度の千葉県認知症コーディネーター養成研修および認知症専門職研修体系構築事業の受託を機に、千葉県作業療法士会、理学療法士会、言語聴覚士会の三士会合同で

「認知症リハビリテーション専門職研修会」を現在まで実施している。基礎コース・応用コースのカリキュラムで、医師、看護師、弁護士、リハビリ職、ケアマネジャーなどを講師として招き、講義・グループワークを通して、リハビリ専門職への認知症の理解を深める研修を行い、延べ929名の受講者を得ている。

令和3年度はオンラインでの基礎コースを実施し、31名の参加者で今後の運営につなげるよう模索している。

開催年度	種別	参加者数			
		OT	PT	ST	合計
H25	初級	67	33	8	108
	中級	69	31	7	107
	上級	69	29	8	106
H27	基礎	54	29	9	92
H28	基礎	22	11	11	44
	応用	33	22	9	64
H29	基礎	54	39	7	100
	応用	39	24	5	68
H30	基礎	42	2	6	50
	応用	24	3	3	30
	フォロー	29	10	6	45
R1	基礎	35	39	1	75
	応用	23	15	2	40
R2	COVID-19感染拡大のため全研修中止				
合計		560	287	82	929

千葉県認知症対策推進委員会、作業部会への委員派遣

千葉県認知症対策推進委員会および作業部会に、千葉県作業療法士会として、委員を派遣している。当委員会は、千葉県内のさまざまな職能団体の代表者や有識者で構成されており、千葉県高齢者保健福祉計画の認知症関連に関する計画策定にも関与している。

令和2年度 認知症リハ研修アウトカム報告書の作成と配布

今まで受講された上級・応用コース修了者対象にアンケート調査を実施し、報告書を作成し、各士会に配布した。現状のプログラムに対し満足している方が多いが、委員や講師など運営側の負担がこれ以上増加しない対策と、今後の派遣依頼に対応できるよう検討していく

今後の展開

- ・千葉3士会合同（千葉POS）への運営委託と、WEBでの基礎・応用コースの実施
- ・認知症リハビリテーション専門職研修の実施マニュアル作成・業務の効率化
- ・認知症の人と家族の会と当研修修了者との地域支援体制づくり

認知症に関する活動計画（概要）

1. 認知症と家族の生活支援委員会定例会議

2. 認知症における作業療法の啓発普及推進

- ・ 認知症アップデート研修
- ・ 都士会ニュースの執筆
- ・ 都民向けブログの執筆 など

3. 認知症関連の情報集約

- ・ 他認知症関連団体との連携
- ・ 認知症に関わる作業療法の実態調査 など

認知症アップデート研修

ONLINEという形式にて、東京都のみならず全国の作業療法士を対象に「第4回認知症アップデート研修」を開催させていただき、北は北海道から南は愛知県まで、総勢100名以上の作業療法士から参加をいただきました。

また、いろいろONLINE開催についての反省点がありますが、「コロナだからこそ」、「ONLINE」だからこそその強みを持ちながら、幅広い作業療法士の方々に「認知症作業療法」の基本を学べる環境を思案しています。

また、今後については「アップデート研修」の「ステップアップ研修」視野に入れ、検討してゆきたいと考えています。

COVID-19（新型コロナウイルス）の影響・対応など

東京都作業療法士会「認知症の人と家族の生活支援委員会」では、2021年7月11日（日）に開催された「第17回東京都作業療法士学会」において、「コロナ禍において、私たち作業療法士はこんなことに気づいたプラスの視点（苦労したコロナ禍での作業療法を経験した私たち、“新たな発見があったはず”前向きに作業療法を考えませんか？）と題し、ONLINEでのグループワーク＆認知症作業療法講座を開催しました。グループワークでは5グループに分け、当委員がファシリテーターとなり「コロナ禍」において様々な不安を持ちながら作業療法を提供してきた中で、「新たな発見」をグループ内で共有しました。

後半では4名の委員が代表しミニ講座を開催し、「自分たちが取り組んできた新たな発見」を振り返ることができました。

当日は学生から教員OTや臨床OTまで幅広く参加していただきました。委員会としても初めての形での開催で様々な不安だらけの開催になりましたが、前向きに開催できたと考えています。「コロナ」を理由にネガティブに考えるのではなく、「コロナだからこそ我々作業療法士は前向きな生活を考えて行こう！」を合言葉に活動しています。

認知症に関する広報事業

会員向けの都士会会報に、委員会の事業報告と認知症に関する広報を掲載している。また、都民一般に対し、SNSやBlogを通して、気軽に読める認知症に関する事例紹介等を発信し、認知症の啓発に努めている。

認知症に関する活動計画（概要）

神奈川県作業療法士では、認知症のある方とご家族の暮らしの困難の改善と健やかな日々への援助ができるように、県内作業療法士の研鑽や各種団体、行政等との連携構築を含めて活動しています。

2020年度では、2回の作業療法士向けの研修、認知症の人と家族の会との連携、県西部で行われている認知症をにんちしよう会との連携を行っています。

会員向け認知症研修

年2回研修会を開催。

2020年度は、認知症アップデート研修とともに、認知症者のリハビリに対して情報共有のために座談会を実施。

また、神奈川県士会制度対策班と共同で福祉用具の研修会を開催。

認知症の人と家族の会との連携事業

例年は奇数月の第一日曜日に認知症の人と家族の会に参加

若年性認知症の方の本人への介入や家族懇談会などに参加し会の運営のサポートを行っている。

2020年度より対面での活動は現在までCOVID-19の影響により参加自粛中

認知症をにんちしよう会の共同開催

神奈川県西部の小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町の行政、医療職、福祉職、介護職の団体で行われている、認知症をにんちしよう会に参加。

例年は認知症に対しての啓発活動を行っていましたが、2020年度よりコロナにより開催は出来なかったが、今年度はオンラインで動画の配信や相談ブースの設置を行い、開催予定。

COVID-19（新型コロナウイルス）の影響・対応など

COVID-19の影響により、対面で行われているイベントなどへの参加は中止。研修会はオンライン上で開催。

イベントはオンラインでの認知症予防の体操動画の配信等に変更。

認知症作業療法 活動報告（概要）

新潟県作業療法士会では、認知症初期集中支援チーム、認知症予防事業、認知症カフェ、認知症サポーター養成講座などに参加している。市町村、地域包括支援センターなどから依頼を受けサポーター養成講座、認知症カフェなどを中心に活動を行なっている。各施設・事業所、個人への依頼が多く、正確な実施数の把握はできない。現在県内を7ブロック、41支部に分け情報収集に努めている。

2020年度は、経験の浅い会員のスキルアップを目的として、臨床場面における認知症対象者へのアセスメント・介入の思考展開、若手作業療法士の取り組みについてのスーパービジョンを実施した。また、地域で活躍できる作業療法士の発掘を目的に、オンデマンド研修を実施し、認知症アップデート研修、地域ケア個別会議における認知症事例の考え方等を実施し好評を得た。

認知症予防事業

市町村、地域包括支援センターなどから介護予防活動として依頼を受け、地域の集いの場やサロンなどで認知症予防教室などを実施している。内容は、地域住民に対して、認知症の理解と予防に関する講話、体操などを行っている。コロナ禍において、今まで実施していた認知症予防の内容をDVDに作成し、集いの場に配布した事業所の報告を受けている。



認知症カフェ事業

市町村、運営ボランティア団体や地域包括支援センターからの依頼、情報提供を受け、各地区で認知症カフェに参加しており、認知症理解のためのミニ講話や予防講話・体操、家族の介護相談などを行っている。コロナ禍の影響を受け事業を中止している場合も多かった。2020年度の実施報告は3地区（延べ16回）と昨年度よりも激減した。



認知症初期集中支援事業

主に認知症疾患医療センターの事業として県内の数施設で初期集中支援事業の実施しているが、OTの参加状況、頻度、内容などについては情報把握が難しい状況がある。2020年度の実施報告は3地区（延べ12回/年）で昨年度よりも減少した。

2021年度の認知症研修

コロナ禍の影響を考慮し、web研修を主として実施予定。昨年度実施したオンデマンド配信は子育て世代や普段参加できない作業療法士から好評であった。今年度はオンデマンド配信をによる認知症アップデート研修の体制整備を実施していく。加えて県内7ブロックでの勉強会への資料提供等を行い、認知症に関わる作業療法士の数の拡大と質の保証を行う予定。

今後の展開

- ・県士会におけるwebを活用した認知症アップデート研修、応用研修の仕組みづくり
- ・コロナ禍における情報収集と課題整理の実施
- ・ブロック体制による地域ネットワーク整備と活動状況把握、フォローアップの実施

認知症作業療法 活動報告（概要）

富山県作業療法士会では、2015年に認知症初期集中支援チーム推進委員会を立ち上げ、富山県内の市町村からの依頼に応じたり、県士会員の認知症に関する知識・技術向上への支援を行っている。現在は認知症作業療法委員会と名称を変更し、16名の委員で対応している。活動は当委員会だけでなく、PT・STとの合同のリハビリテーション専門職協議会、県士会内の地域アドバイザー推進委員会や作業療法普及指導部とも連携して取り組んでいる。

「若年性認知症の人と家族の交流会」への援助

【経緯】

- ・富山県若年性認知症相談支援センターより、「本人家族の交流会の運営に力を貸してもらえないか」との依頼を受ける。

【実施】

- ・2020年7月より2ヶ月に1度実施。コロナの影響で中止になることもあったが、現在までに6回実施している。
- ・家族が互いに情報交換を行っている間、作業療法士は保健師や看護師と共に若年性認知症の当事者の方への対応を担当。
- ・達成感や季節感を共有しやすい工作活動を選定して実施。当事者の方の力を引き出し、生き生き過ごすことが出来る場の提供を行っている。

【これまでの内容】

トートバック、お菓子バック、クリスマスリース、ランプシェード、団扇、風鈴



認知症作業療法アップデート研修

- ・2020年はコロナの影響で中止となったが、2021年3月にWeb開催。
- ・参加者は36名で現地開催時よりもやや多かった。
- ・Web研修開催には戸惑いもあったが、自宅から参加できるメリットは大きく、Webの方が参加しやすいとの声が多数あがった。
- ・資料の配布方法、研修費の入金方法など運営のノウハウを構築することが出来たので当面Web開催を基本として対応していく。

COVID-19（新型コロナウイルス）の影響・対応など

以下がCOVID-19により中止となった。

- ・2021年10月：健康と長寿の祭典（PT・STと共に啓発事業を行う予定だった）

今後の展開

- ・若年性認知症の人と家族の交流会の援助を継続していく。
- ・認知症作業療法の啓発など、現地で実施しないと成果をあげにくいことも多い。コロナ終息後を見据え、Webと現地開催双方で出来ることを検討していく。

認知症に関する活動計画（概要）

石川県作業療法士会では、昨年度に引き続きコロナ禍で活動することの難しさに配慮しながら以下の2つの柱を掲げて活動を計画する。

1) 地域包括ケアシステムの中で、認知機能が低下しても住み慣れた地域で暮らすことを望む人やその家族の支援と地域づくりをすすめる。コロナ禍でも途切れることなく支援体制を整えることができるようなツールの開発や運用方法を発信していく。市町の様々な取り組みの現状をしっかりと把握し作業療法士の参画を支援していく。

2) 認知症の特徴を踏まえた作業療法の提供、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりに各士会員が実践できるような支援を行ない、その技術向上に取り組む

地域での認知症予防の推進

認知症予防と認知症になっても安心して暮らせる地域づくり「共生」を目指すためのプログラムとして金沢市の依頼を受けて県士会が監修して作成した「いつでもどこでも脳活プログラム」の冊子や動画を活用し、コロナ禍でもリモートで教室運営ができるように取り組みをすすめている。昨年度から本格運用している脳活プログラムの開発・運用に認知症対応委員会として参画していく。



地域での認知症の人と家族の支援事業

県内の各市町での認知症初期集中支援チームへの県士会員の協力状況や認知症カフェの開催状況、他団体との協力体制の現状について情報収集を行なう。現在参画している作業療法士への支援、まだ作業療法士が参画できていない地域への参加・協力を推進する。

COVID-19（新型コロナウイルス）の影響・対応など

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴って活動の狭小化が継続している状況にある。また、感染状況によって地域の活動の場や活動内容に差が生じ、格差が生じている様子も見られている。

昨年度作成した「暮らしのひと工夫紹介」のチラシや動画の活用を推進していく。



協会との連携事業

協会からの調査内容を確認し、全県士会員を対象としたアンケート調査を実施する。協会との意見交換に積極的に参画し、認知症の人と家族への支援と効果的な作業療法の提供を推進する。

認知症に関する活動計画（概要）

福井県作業療法士会では、平成25年度から特設委員会として認知症対策委員会を設置し、主に会員の認知症への理解や対応力を高めるために、認知症や認知症予防に関する情報の把握・勉強会・研修会等を開催している。しかし昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響のため中止せざるを得なかったが、今年度は少しでも進捗できるように対策委員会のメンバー10名で企画を練り上げている所である。現在、福井県職員の派遣制度〈現場でトーク〉を使って、「みんなで支えよう認知症」というテーマの勉強会を企画したり、来年1月29日に開催される「第9回認知症疾患医療センター全国研修会 福井大会」の広報なども計画している。



県内OTの認知症関連の動向把握

昨年度はコロナの影響で認知症対策委員会としては動けなかったが、県内のOTの方々に聞ける範囲で情報提供を呼びかけ、認知症関連で動いた情報を集めてまとめた。

- * 認知症初期集中支援チームへの協力・参加（坂井市・越前市）
- * 県のチームオレンジ研修会への参加・坂井市のチームオレンジに関与
→本人・家族のニーズと認知症サポーターを中心とした支援をつなぐ仕組み
- * 県の若年性認知症自立支援ネットワーク会議への参加
- * 丸岡町の認知症の方と家族の相談会に出席
- * キャラバンメイト連絡会への参加（福井市・大野市）
・認知症サポーター養成講座開催：福井市小学校・中学校にて
- * 「感染対策を実施しての」認知症予防に関する講座（5市町村）
- * 南越前町の介護予防サポーター（認知症予防）養成講座講師
- * 県社会福祉協議会主催の認知症管理者研修会の講師
- * 大学病院の認知症認定看護師の研修会の講師・など

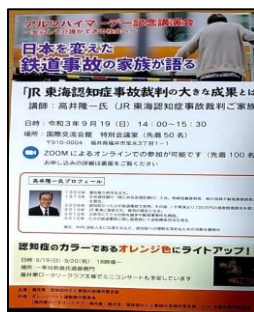


感染対策を実施しての
認知症予防講座の様子

世界アルツハイマー・デーでのイベントの企画

認知症の人と家族の会との連携事業

単独の企画や連携事業は今のところないが、福井県と認知症の人と家族の会 福井県支部が企画されている9月19日の講演会・ライトアップのイベントの広報や認知症の推薦図書の広報を計画している。



COVID-19（新型コロナウイルス）の影響・対応など

昨年度は、認知症研修会や情報交換会等もコロナの影響で中止したので、今年度は少しでも進捗できるようにしていきたい。最近、ある社協の生活支援コーディネーターの方から、コロナ禍の自粛生活の影響(足腰の衰え・もの忘れの不安の訴え等)が地域の高齢者に顕著に現れているとの情報を得たので、少しでも情報提供をできるようにフレイル予防のチラシを地域活動推進部の方と練り上げている所である。



認知症に関する活動計画（概要）

山梨県作業療法士会では、毎年認知症スタンプラリーという大きなイベントを開催していたが、コロナ禍において昨年度から開催できていない。委員によっては、外部の活動が難しい者もいるため、オンラインでの会議を中心に話し合いをしている。昨年度は活動が停滞したが、今年度は以下の2つの活動を進める計画を立てている。

① 認知症の方への作業療法士の関わり事例集作成

認知症の方への関わりの一部を切り取り、市町村や一般の方にもわかりやすい事例集を作成する予定。

② 認知症関連支援機器ボックス

認知症関連の支援機器や自助具等を、県士会で購入し、会員が支援する際に貸し出しができるようにする。今年度は少しずつ物品を購入することから開始。

世界アルツハイマー・デーでのイベントの企画

県士会としては、イベントの企画・運営は行っていない。

委員の中で、個人としてRun伴や図書館での認知症図書展示などの企画に関わっている。

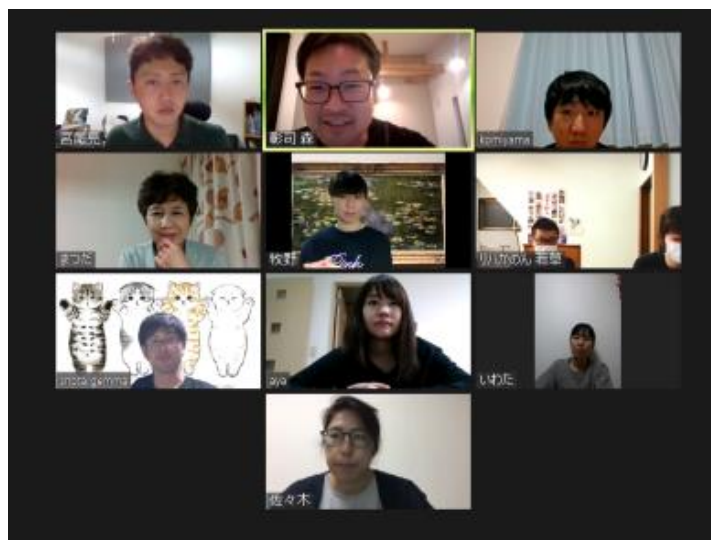
認知症の人と家族の会との連携事業

現状、直接的な関わりは行えていない。

連絡は取り合っており、10月31日に行われる「認知症の人と家族の会 全国研修会」のオンラインでのサテライト会場の設営について協力依頼を受けている。

COVID-19（新型コロナウイルス）の影響・対応など

毎年行っていた認知症スタンプラリーは、2020年度から中止を余儀なくされている。認知症対策推進委員の会議はzoomを使用したオンライン会議を行っている。



認知症作業療法 活動計画（概要）

岐阜県作業療法士会では、平成26年度より地域リハ推進部内に認知症対策推進委員会を設置し、地方局と協力し各地区への認知症推進委員の配置した。平成27年度からは、①認知症リハビリテーション専門職の人材育成②認知症リハビリテーション専門職の地域派遣体制の構築を中心として活動を進めています。①に対して県士会主催の研修会、②に対して3士会合同事業として、岐阜県介護予防事業推進リーダー研修会を5年続けて行っており、岐阜県作業療法士会においては、認知症予防と関わり方についての研修会を進め、人材育成とリーダー育成、認知症初期集中支援チームへの参画できるように活動を行っている。

認知症UD研修会

今年度も継続して研修会行う予定にしている。開催方法は、前年度同様にZOOMにて行う予定だが、COVID-19の様子を鑑みてハイブリット形式で行うことも検討していく。

認知症の人と家族の会との連携事業

現在岐阜支部との連携においては、担当者への訪問は今年度はまだ行えていません。そのため、直接的な介入はできていないため、先方の意向やこちらからの提案を進めていき、研修会の開催などを合同で進めていけるように検討していく。

家族の方も、作業療法士会からの参加より、一人のスタッフとして参加していくほうがいいのではとのアドバイスがあり、参加者を決めていく予定。

COVID-19（新型コロナウイルス）の影響・対応など

国や各自治体での緊急事態宣言により研修会開催の中止も余儀なく、今年度の予定が確実に立っていない状態となってしまった。そのため、年内の学会及び研修会の開催などに大きな影響が出ており、日程調整に難航している状態である。そこで、当士会においては、「ZOOM」研修をとりいれ、場合によっては、ハイブリッド形式も念頭に入れ、今後研修会を行っていく。

介護予防推進リーダーへの講師派遣

県からの委託事業として、理学療法士会・言語聴覚士会合同で行っている研修会の中で、リハ職向けの認知症との関わり方について講義を行っている。現在、介護福祉分野だけでなく、医療分野で働く他のリハ職種に対しても理解を促している。また、認知症に関する研修は、作業療法士会が担当として行っていく。

認知症に関する活動計画（概要）

静岡県作業療法士会では、学術部内に認知症班として位置付けて活動している。認知症班にはSIGとWGがあり、SIGではアップデート研修会やステップアップ研修会を開催している。WGでは、RUN伴への参加や地域の研修会の講師を行ったり、外部に向けての発信をしている。現状ではコロナ禍の影響により、認知症カフェや家族会との関りができていない状況にある。今後は、県士会員の認知症関連事業に参画して情報収集を行い、実態調査を行っていく。また、地域や会員から求められていることの架け橋になれるように、情報交換会を企画していきたい。

研修会事業

昨年度は、コロナ禍の影響によりZOOMによるオンラインでのアップデート研修会を開催した。

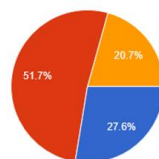
参加者は40名であった。研修会の満足度は80%程度と高く、オンラインでの研修会は好評であった。

今年度も、10月にアップデート研修会を行う予定である。また、今年度は鹿児島大学の田平隆行先生をお招きし、ステップアップ研修会を12月に開催する予定である。

研修会の内容について

29 件の回答

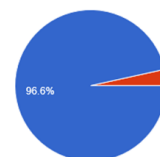
- 満足
- ほぼ満足
- 普通
- やや不満
- 不満



ウェブでの開催について

29 件の回答

- 参加しやすい
- 参加しにくい



静作

調査事業

県士会員で認知症事業に参画している方を把握し、実態調査を今後行っていく予定。どの程度のOTが、どのような取り組みを行っているのかを調査し、情報交換ができる場の提供を検討している。

地域事業

静岡市では令和2年に、認知症の方やその家族への総合的な支援を行う中心拠点「静岡市認知症ケア推進センター“かけこまち七間町”」がオープンしている。市からの依頼により、リハ職（PT,OT）で認知症予防講座を実施しており、プログラムの運営を行っている。また、静岡市認知症初期集中支援チーム検討委員会として会議への参加をしている。

浜松市の事業として、在宅医療・介護連携推進事業「知って得するお出かけ講座」に参画。市民向け（主に地域の高齢者）に認知症予防講座を実施している。



かけこまち七間町

家族会、認知症カフェ、RUN伴

「県希望大使」として当事者の立場で情報発信する方の支援を、ピアサポーターとしてOTが活動を支援している。

9月の世界アルツハイマーデーに合わせて、RUN伴や家族会のイベントに参加予定。

認知症に関する活動計画（概要）

愛知県作業療法士会(以下、愛知県士会)では、引き続き認知症施策大綱、愛知県独自の認知症施策である「あいちオレンジタウン構想」を踏まえて、作業療法士が認知症の方の自分らしい生活、「できる」を支援する具体的な取り組みを検討している。

今年度は、昨年度に実施した認知症疾患医療センターやもの忘れ外来における愛知県士会員の関与の実態調査の結果を広報誌に掲載し、活動内容や課題等の周知を図った。さらに、各方面への作業療法士の活用をアピールするためのパンフレットの作成、地域活動実践者研修会の中で、愛知県認知症希望大使を招き、認知症のご本人とともに考える機会や、地域包括ケアの人材育成研修会内で認知症についての講演を企画することにより、人材育成の強化に努めている。認知症の方へ作業療法士の関わりが求められる中、対応できるよう体制づくりと人材育成をさらに、推進していく。

世界アルツハイマー・デーでのイベントの企画

今年度も愛知県士会員がキャラバンメイトのメンバーとして参画する。また、世界アルツハイマー・デーに合わせて愛知県士会のホームページの配色をオレンジ色に変更し、アルツハイマー・デーの概要や愛知県士会としての取り組みを紹介するコラムの掲載を企画している。

認知症の人と家族の会との連携事業

愛知県士会としての連携事業は行えていないが、愛知県士会員が愛知県支部の世話人を務め、若年性認知症のご本人とご家族の居場所づくりにも関わっている。

COVID-19（新型コロナウイルス）の影響・対応など

対面での研修会は開催せず、オンラインでの研修会を実施することで、学びの機会が担保できるよう取り組んでいる。

行政との連携及び関連する事業内容

愛知県および名古屋市の若年性認知症自立支援ネットワーク会議に愛知県士会員が参画している。若年性認知症の人に対して発症初期から高齢期まで本人の状態に合わせた適切な支援が図れるよう、医療、介護、福祉、雇用の関係者が連携し、支援ネットワークを構築することを目的としている。

また、今年度より愛知県では認知症のご本人2名を「愛知県認知症希望大使」として任命し、認知症の啓発活動やピアサポート事業を実施しており、愛知県士会員がその活動のサポートを行っている。さらに、県内で行われている認知症サポーター養成講座も兼ねる研修会の後援も行っている。

こうした活動の中で、認知症の方への支援に行政等より作業療法士への期待が大きい現状があった。行政担当者等とも意見交換を重ね、愛知県士会としてできることを検討していく。



作業療法士

認知症希望大使

認知症作業療法 活動報告

三重県作業療法士会では、①知識と技術の研鑽の場づくり、②OTが地域に出て活動するための仕組みづくりを目的に、2017年度から認知症作業療法推進委員会（現、認知症とともに班）が発足し活動している。2021年度から活動目標を「**認知症フレンドリー社会を目指す**」と掲げ、下記の活動を実施中である。今年度も新型コロナウイルス感染症による対策として、活動をオンライン中心とし、認知症当事者や介護家族、他職種、OT県士会員のため、安全・安心の環境を整えたうえで活動している。

① 認知症アップデート研修会

8/1（日）に県下の薬剤師と連携し、臨床で直ぐ活用できるよう、「病院・地域で働いて感じる多職種との連携」「BPSDに対する薬物療法」「認知症のBPSDに対する非薬物療法の取り組み」について講義を実施し、グループワークでは他県士会員や他職種と活発な意見交換ができた。

② 認知症スキルアップ研修会

昨年度は、鹿児島大学の田平教授を招き、OTだけでなく、他職種や行政など地域に携わる多セクションを対象に含め、認知症の人のIADLを工程分析して介入につなげるための視点をご教授いただいた。今年度は、地域ケア会議、認知症初期集中支援チーム、認知症カフェ、認知症の人と家族の会、通いの場、暮らしの保健室などの話題提供と、活動につながる検討会を行う予定である。また現在県の基金事業に挑戦しており、今後施策に則った活動につなげていきたい。

③ みえーる認知症 OT交流会 オンライン勉強会

2020年度から毎月1回オンラインを活用し、学習したこと、研究テーマ、事例検討、臨床での困りごと、伝達研修などについて、認知症とともに班メンバーが輪番制で発表・話題提供を行っている。また昨年度は、北海道県士会員と協働で勉強会を企画運営し、全国から認知症OTが参加し、ともにスキルアップを行った。

Mission1:
知識と技術の研鑽の場づくり

認知症フレンドリー
社会を目指す

Mission2:
OTが地域に出て活動するための仕組み作り

④ 回想法を活用した 地域づくり

2020年度から毎月1回「OTオンライン回想法勉強会」を実施している。協働仲間づくりを行いながら、共に回想法を学び、リーダーの人材育成を図っている。その後、認知症カフェや回想法研修会の地域活動に繋げている。各市町1名以上の参加目標を掲げ、人材バンクを担っていく。

⑤ 認知症フレンドリー社会：買い物・スーパーに焦点を当てる

認知症の人の現状と課題、地域別ニーズ、スーパーに訪問し環境や現状調査、スーパーのマッピング作りなど、できることを探り実行している。北勢では認知症フレンドリーなイオンタウンを目指すため、有識者会議や本人ミーティング（実際に認知症の人がイオンタウン内を買い出し、その結果を含め対話をする）を開催予定である。それらの結果を2022年1月に研修会+報告会として実施予定である。

⑥ 関係機関との連携

- ・ **認知症の人と家族の会**：OT2名が若年のつどいの世話人を担当（うち1名は代表）。OT2名が第36回 全国研究集会 in 三重の実行委員会を担当した。
- ・ **メモリーカフェ'日永'**：H28年度より、毎月「認知症の人への回想法実践」を実施中。OT数名参加。取り組み内容が、日本作業療法士協会誌に掲載されました。

一般社団法人 三重県作業療法士会 認知症とともに班

認知症アップデートオンライン研修会

認知症アップデート研修会とは
認知症のある方と家族の生活支援や地域活動に役立つ知識や技術を学ぶ機会を、オンラインで提供することです。認知症のある方と家族の生活支援や地域活動に役立つ知識や技術を学ぶ機会を、オンラインで提供することです。

～研修内容～

1. 「認知症・地域で働く多職種の連携について」
講師：作業療法士 工藤元典（デパート・センター講師）
2. 「認知症に対する薬物療法について」
講師：薬剤師 川口雅夫（OZ（認知症））
3. 「認知症の非薬物療法について（認知症の症状に対する非薬物療法の取り組み）」
講師：作業療法士 上田真由（三重県認知症支援センター）
4. グループワークの振り返り
講師：作業療法士 河合晶子（三重県認知症支援センター）

開催日 2021年8月1日（日）

13時30分～16時30分
（受付13時～13時30分）
1000円
会場：Zoom（Zoom Meeting）
連絡先：認知症とともに班（Zoom）

認知症のある方への支援に役立つ知識や技術を学ぶ機会です。
作業療法士と家族の生活支援がテーマとなります。

下記からお申し込みください。（7月4日～7月10日）
お申し込み先：認知症とともに班（Zoom）
お申し込み先：認知症とともに班（Zoom）

お申し込み先：認知症とともに班（Zoom）
お申し込み先：認知症とともに班（Zoom）

認知症アップデート研修会

認知症スキルアップ研修

[concept]
認知症に関する地域活動にOTが参画していくために、認知症支援のスキルアップを図ると共に、地域活動へ興味を持って参加してくれる人材を活躍できる場へとつなげていく取り組みを作る

[過去の開催の様子]

認知症に関する活動計画（概要）

滋賀県作業療法士会では、今年度は認知症にかかわる作業療法士のオンライン交流会を開催し、研修計画につなげていきます。顔の見える関係づくりと、様々な領域で認知症に関わる作業療法士が課題、情報を共有して認知症支援に関わることができることを目標にします。

また、認知症の人と家族の会との連携についても継続していきます。カフェやつどいなどの交流会での協力、また家族の会の方を講師に実際の介護家族について勉強させていただく機会を企画していきます。

世界アルツハイマー・デーでのイベントの企画

士会単独のイベントはありませんが、認知症の人と家族の会の啓発イベント、講演会企画などに協力していきます。
(写真は昨年度、国宝彦根城のライトアップです。)



認知症の人と家族の会との連携事業

昨年度は認知症の人と家族の会の方より、OT向けに介護家族の実際、家族の会の活動について研修いただきました。今年度より、士会の認知症推進員が認知症の人と家族の会 滋賀支部の世話人に就任し、より連携を意識して活動していきます。家族の会主催のカフェや士会共催の若年のつどいなどでの（コロナ禍で協力できる会員は限られますが）協力士会員を増やし、士会員自身の地域実践の場につなげていきたいと考えています。

昨年度より若年認知症のつどいについては共催で開催していますが、対面でのつどいのため、今後はオンラインでの開催も検討し、協力の形を考えていきたいと思います。



認知症に関わるOT交流会事業

認知症に関わるOTがつながることで、交流会では、認知症にかかわる作業療法士の顔の見える関係づくり、地域だけでなくまだまだ課題の大きい施設や病院でも認知症にかかわる作業療法士も含め、様々な領域で認知症に関わる作業療法士が課題、情報を共有して認知症支援に関わることができることを目標にします。

認知症支援にかかる人材育成事業

昨年度までは協会のアップデート研修を中心に開催していましたが、今年度はアップデート研修だけでなく、交流会で明らかになった課題に対して研修会を開催します。

滋賀県作業療法士会 認知症対策特設委員会 主催

～認知症で繋がろう～
滋賀県認知症に関わる
OT交流会

2021
開催
日時 8.20(金)19:30～20:30
開催方法 ZOOMによるオンライン開催

参加
無料

1. 認知症特設委員会からお知らせ
今年度の活動予定、情報提供など認知症に関する情報をお知らせします。

2. 認知症特設委員会への質問コーナー
事前にいただいたアンケートから皆さんの質問にお答えします。介入方法や研修方法など・・・

タイムテーブル

●●滋賀県で認知症に関わる作業療法士で繋がりたい●●

認知症対策 特設委員会では今年度は滋賀県の認知症に関わるOT職士の交流会を企画しました。認知症に関わっている方、認知症に携わる方、今後認知症のケアに関わる方、その他などたても参加可能です。悩みを相談したり、共有したり、アドバイスももらったり・・・交流しましょう。

認知症作業療法 活動報告（概要）

京都府作業療法士会の社会貢献局に位置付けられる認知症支援推進部（2021年8月現在〇〇名で構成）は、府民に対する認知症支援を軸とした直接的社会貢献事業に取り組んでいる。

認知症カフェ支援に関する京都府からの受託事業（2018年度～2021年度現在）

支援依頼の内容に応じて、府下の認知症カフェにアドバイザーを派遣し、認知症カフェの運営に関わる助言を行う「本人の活動を重視する認知症カフェ支援アドバイザー派遣事業」として2020年度は4カ所のカフェに、計35回、延べ68名を派遣。

2021年度は「本人の活動を重視する認知症カフェ開催支援事業（WITHコロナ）」として受託。

認知症を考える公開Webセミナー（全3回）

コロナ禍における社会貢献事業として開催。認知症当事者と仲間による講演と演奏、家族（認知症の人と家族の会）の講演、OTの実践報告。（詳細は2020年度の活動報告を参照）

全3回の受講者は159名（府内外の当事者家族、OT、PT、ST、保健師、看護師、社会福祉士）

認知症カフェの運営協力

受託事業に先行し、2013年より認知症カフェの運営に関与。2021年度は6カ所に、計23回、延べ28名を派遣。

各種連絡会・協議会への関与

当事者団体、医師会や行政、各支援機関などで構成されている団体へ部員の派遣を継続中。

認知症支援に関する会員の教育

教育部主催研修会へと移行し、研修内容や講師選定等を当部が主に行う形で試行中。

京都認知症カフェ連絡会への関与

世話人に部員1名を派遣。セミナー等の運営協力も継続中。

埼玉県作業療法士会との連携

2019年度より埼玉×京都の公式連携開始。

2020年度はオンラインを用いた合奏にも挑戦！

2021年度も研修会企画！



（公社）認知症の人と家族の会との連携

世界アルツハイマーデー（9月21日）に開催される京都タワーでのライトアップイベントの運営協力。



今後の展開

- ・ コロナ禍をはじめとした災害の中であっても展開できる認知症支援の実践継続
- ・ 京都市外のOTとの連携強化（Web会議の試行と実用化等）
- ・ （公社）認知症の人と家族の会との連携強化
- ・ 士会内の他部署や他士会との継続的連携
- ・ 各種依頼へのタイムリーかつ良質な対応のための体制強化



認知症に関する活動計画(概要)

大阪府作業療法士会では、今年度より二次医療圏のブロックで活動している認知症支援委員との有機的な連携を図るために、特設委員会である認知症支援推進委員会の委員と兼務する体制作りを行いました。これにより、地域の実情に精通した委員からの情報収集を行い、会員による認知症に関連する地域支援事業への参画状況について、府下全体的な実態把握を進める計画です。

1. 認知症作業療法や認知症初期集中支援チームに関わる人材育成のための研修会

①認知症アドバンス研修「臨床編」(Web開催:年1回)

- ・認知症の人への臨床における作業療法実践力を高める
- ・参加資格:過去に府士会認知症初期集中支援に関する研修会かアップデート研修を受講した会員を対象

②認知症アドバンス研修「地域編」(Web開催:年1回)

- ・地域における認知症の人への支援の理解を深める
- ・参加資格:認知症アドバンス研修(中・上級)か認知症アドバンス研修「臨床編」を受講した会員を対象

2. 近畿作業療法士連絡協議会との連携

- ・会議、情報交換会への参加(年4回)

3. 教育部老年期領域・精神領域、就労支援委員会、運転と作業療法委員会との連携

- ・「認知症作業療法の質の向上(案)」に関する研修会(年1回)
- ・「若年性認知症の就労支援(案)」に関する研修会(年1回)
- ・「認知症と運転(案)」に関する研修会(年1回)
- ・老年期開催の認知症アップデート研修の運営フォローアップ

4. 市町村、地域包括ケア委員会との情報交換・連携

- ・認知症初期集中支援チームに関する情報収集・人材推薦
- ・地域包括ケア委員会と連動した情報収集・人材推薦・啓発(認知症予防活動、認知症カフェなどの活動状況)

5. 各ブロックとの連携

- ・各ブロックとの情報交換を密にして連携を強化する(ブロック重点項目担当者の委員会への参画)
- ・認知症初期集中支援チーム、認知症予防活動、認知症カフェの活動状況についての情報収集(情報収集シートの活用)



認知症の人とご家族の皆様へ

【自粛期間Ver.】

大阪府作業療法士会 認知症支援推進委員会

感染予防で、介護福祉サービスや地域交流等の外出の機会が減り、生活のリズムが乱れていませんか? 認知症(進行)予防は、生活リズムを整え、気持ちに「張り」「や」取りを感じる事がとても大切です。この機会に生活を見直してみませんか? 毎日の毎日が特別な日になりますように!

①生活リズムを整えましょう!

介護・福祉サービス利用時と同じリズムで生活しましょう。特に朝の起床時間、着替え、洗面、食事、入浴、就寝時間は規則正しく保ちましょう。運動も大切です。感染予防のためにも、手洗い・うがいの習慣化、脱水・便秘予防に、こまめな水分補給を行いましょう。

②好きな活動や大切に思ふ事、人との交流などを取り入れて過ごしましょう!

自粛生活で生活環境が変わり、不安や悲しみなど不安定な状態になる方もおられます。好きな活動、楽しい時間など自分らしく過ごせる時間を生活の中に取り入れてください。一人で、リラックスして過ごせる時間作りも大切です。

③家庭内での安心感や自己の存在感を感じてもらいましょう!

基本の挨拶(おはよう、いただきます、うれしい、おやすみ等)を大切に。思いやりや寄り添う声掛けが安心感につながります。否定的なことばや感情は互いにストレスが生じます。また活動を通して「○○してくれてありがとう!」とて感謝の気持ちを伝え、大切な家族の一員であることを伝えましょう。



<最後に>

各サービスを上手に活用し、ご家族様もホッと一息つける時間を作りましょう! 困りごとが起きたら決して一人で抱え込まず身近な人に相談して下さい。

<1日のスケジュール例>

活動は参考です。無理のない計画を立てましょう!

午前	起床(定時)
	着替え、洗顔 朝刊取り、家庭菜園の水やり
	手洗い、朝食、服薬、歯磨き(定時)
	NHKみんなの体操 朝刊読み、天声人語書き写し
	お孫さんと一緒に雑巾・マスク作りお茶(水分補給)
午後	手洗い、昼食、服薬(定時) 食器洗い
	NHK連続テレビ小説
	息子と孫と写真アルバムの整理
	NHKテレビ体操
	おやつ、お茶(水分補給)
	昼寝
	洗濯物たたき、水やり、草引き
	夕刊読み、夕刊読み
	夕食作り(調理の補助、盛り付け)
	手洗い、夕食、服薬(定時)
	入浴
	家族団らん、遠方の孫とTV電話
	就寝(定時)

認知症の人と家族の会との連携事業

- ・定例会(つどい、つくしの会)への参加
- ・支部報への連載(認知症作業療法についてなど)
- ・「外出支援について」講演会(8月、10月)
- ・ゆっくりの部屋(大阪市認知症の人の社会活動推進センター)の運営協力(講師派遣、活動支援など)

COVID-19(新型コロナウイルス)の影響・対応など

- ・会議、研修会は、すべてWeb開催
- ・「認知症の人とご家族の皆様へ(自粛解除バージョン)」啓発フライヤーを作成しHPへ掲載
- ・Zoomを利用したWeb研修会「参加・運営」マニュアルの活用(作成:大阪府作業療法士会)

認知症に関する活動計画（概要）

兵庫県作業療法士会では、県士会内の特設委員会として設立された認知症対策委員会を中心に認知症対策を展開している。現在、委員会での企画は大きく2つあり、一つは地域で認知症の方やその支援者をサポートできる作業療法士の人材育成であり、もう一つは認知症の人と家族会との連携による当事者支援である。研修では前年に続き、Ⅰ～Ⅲまでのステップアップ形式の研修を企画し、基礎的な知識から地域支援に関する演習までを学べる企画とした。病院や施設で働いている作業療法士が多い中、地域包括支援の視点を踏まえ、少しでも地域で認知症の方を支えられる仲間を育成することが重要と考えての企画である。また、認知症の人と家族会との連携では、当事者支援につながる活動実施に向けて企画そのものから協働して活動していくことを予定していた。

認知症の人と家族の会との連携事業

認知症の人と家族の会と協働にて当事者支援に向けた企画を検討し進める予定であったが、実施に至らず、企画、運営を行うことができなかった。

covid-19（新型コロナウイルス）の影響・対応など

2020年度は7月、10月、1月にステップアップ研修開催を企画していたが、COVID-19の感染拡大状況を考え運営は一時ストップした。研修方法を、web開催に切り替えて再度準備を進めていたが、様々な調整に時間を要し、実際に開催できた研修は、3段階のステップのうち第1段階のみの限定した開催となった。委員自身も試行錯誤の中での開催となったが、Web開催での研修運営について得るものも大きく、2021年度の開催については2020年度の経験を基に、従来の計画であったステップⅠ～Ⅲまでの研修実施につなげることができている。

認知症の家族会とは前年度に話し合いを持ち企画を立てるという計画まで進めていたが、そのあとcovid-19の感染拡大により、計画が全面的に止まることとなり、再開の目途はまだ進んでいない状況となっている。



初Web研修の様子

兵庫県士会事務所を
キーステーションとして

研修事業の影響について

地域で認知症の方やその支援者を支援する作業療法士の人材育成に向けた活動は引き続き継続する方針で変わりはなく、2021年度はwebをフルに活用して研修ができるように企画を進めている。また、移動の負担をかけず地域を超えて様々な方を講師に迎えることも対面に比べて行いやすいというWEBでのメリットを生かした企画もあがっており、委員の一人の知人である英国のOTRを招聘して、英国における地域でのOTRの役割と実践に関する講義と意見交換会ができるように調整している。

認知症の人と家族の会との連携はcovid-19の感染状況を見ながらの企画検討となるが、活動の実施が難しい場合は、次年度以降も何らかの連携を状況に合わせて継続できるよう、話し合いを持つよう企画していきたい。

認知症に関する 活動計画（概要）

奈良県作業療法士会では、士会員に対し、認知症支援について相談・共有できる場を充実させるため、

①分野別研修：2分野（地域・入院入所）の事例検討と意見交換会（Zoom形式）

認知症の方へのOTの支援の広報を兼ねて

②多職種研修：行政機関、事業所の講演（対面形式、状況に応じてZoom形式）を予定している。

家族の会との連携、市町村事業については下記に記す。

世界アルツハイマー・デーでのイベントの企画

予定していない。

認知症の人と家族の会との連携事業

年2回開催の本人の集いイベントの協力参加を予定していたが、イベントが中止となった。定期的に行われる家族の会主催のつどいには、認知症支援委員の派遣は感染症拡大防止の観点から行わず、支援委員が臨床で介入している当事者・家族に紹介を続けている。また、若年発症者向けのリーフレットを家族の会が作成され、そちらも広報している。

COVID-19(新型コロナウイルス)の影響・対応など

市町村事業については、一昨年度まで実施していた一般市民向けの認知症予防講座や啓発活動、本人ミーティングが引き続き中止されているが、市町村職員との会議や施策検討は再開している。

認知症作業療法 活動計画（概要）

和歌山県作業療法士会では、「認知症の人の生活支援委員会」を設置し、委員は医療機関や介護施設に所属する8名で構成。市町村からの依頼に対して認知症予防の講話や体操の指導を行なっています。認知症アップデート研修は7月11日とR4年1月の年2回開催。今年度は認知症アップデート研修②～③を開催予定。今年度から認知症の人の生活支援工夫集を作成し、生活支援の在り方を普及、啓発していきます。認知症の人と家族の会 和歌山支部と事業連携し、啓発事業を行なっています。

世界アルツハイマー・デーでのイベントの企画

今年度は新型コロナウイルスの影響で活動を行えていません。

認知症の人と家族の会との連携事業

認知症の人と家族の会 和歌山支部と事業連携し、各啓発事業や講演会の開催協力を行うと共に専門職として認知症に関わる生活・健康指導等を行なっていきます。また、「認知症の方への生活支援～作業療法士の活用～」として認知症の方の支援における作業療法の視点、作業療法士活用の問合せ先等を記載したパンフレットを配布していく。



COVID-19（新型コロナウイルス）の影響・対応など

認知症アップデート研修や認知症における研修会等の対面開催は難しい為、ZOOMを用いたオンライン研修会等を計画しております。オンラインで参加しやすい環境づくりを行なっていきます。



介護予防・日常生活支援総合事業

和歌山市では理学療法士・作業療法士・言語聴覚士による「WAKAYAMAつれもて健康体操」を実施。作業療法士は其中で認知症予防講座として認知症予防に効果的な生活習慣の紹介や運動との関係についての講話や体操の指導等を行なっている。

今後の展開

- ・市町村から県士会として委託事業が受けられるように活動を継続する。（認知症カフェでの関わり）
- ・アップデート研修会の開催と生活支援工夫集のデータ蓄積。

認知症に関する活動計画（概要）

鳥取県作業療法士会では、平成年度より認知症対策委員会を設置し、①認知症初期集中支援チームをはじめとする認知症施策やケア会議等において作業療法士の立場から適切な助言・支援ができる人材育成、②地域・高齢者に対するケアを推進する地域の各職種と連携・協働し地域の抱える課題の検討などを推進できるチームケアリーダーの育成を目的に活動を行っている。年3回の認知症研修会は、令和2年度末時点で会員数544名中103名が受講修了している。また、アップデート研修を28年度から毎年1回実施し、計165名の会員が受講修了している（30.4%）。

世界アルツハイマー・デーでのイベントの企画

「認知症の人や関係者の思いをカタチにする」というテーマで、いままでRUNTOMO鳥取に参加した参加者から“RUNTOMOのなかで出来たらいいなこと・誰もが暮らしやすい街になるためにあったらいいこと”についてコメント募集し、県内各所に掲示するイベントを企画中。

認知症の人と家族の会との連携事業

2018年度から若年認知症サポートセンターが行っている「若年性認知症本人と家族の集い」に会員を派遣。内容の企画・実施に携わり、本人・家族のサポートを行っている。

COVID-19（新型コロナウイルス）の影響・対応など

「若年認知症の人と家族のつどい（にっこりの会）」へ会員を派遣し内容の企画・実施に携わっていたが、COVID-19の影響を受けて中止、派遣困難な状況が続いていた。感染拡大状況に応じて内容の変更等を行い、一部Web開催へ変更したが、参加者のWeb環境等が整っていないこともあり積極的な活用には至っていない。

2017年度から実施していたRUNTOMOもCOVID-19の感染拡大の影響により中止となった。



VR認知症研修会の様子



ろうあ仲間サロン会（ポッチャ）

認知症予防関係

研究開発に協力した「とっとり方式認知症予防プログラム」の普及・啓発事業として、県内社会福祉協議会の担当者や県下サロンの世話人向け研修会、老人クラブ向け研修会説明会などで市民向けにプログラムの紹介やデモンストレーションなどを行ったり、認知症予防専門士講座などでのプログラム紹介を行っている。



とっとり方式認知症予防プログラム

認知症初期集中支援関係

平成28・29年度で国立長寿医療研究センターが開催している認知症初期集中支援チーム員研修へ県士会員を6名派遣、認知症研修会の中で伝達講習を行い、会員94名が受講済み。現在、県内19市町村のうち、9市町村で初期集中支援チームへチーム員会議を中心に会員が関与しており、一部では訪問等の実働も行っている。令和2年度前半はCOVID-19の感染拡大に伴いチーム員会議も中止となっていたが、徐々に再開している。

認知症に関する活動計画（概要）

島根県作業療法士会は、会員数525名・所属施設数132(令和2年1月21日現在)で構成されています。令和3年度は、昨年同様に県士会におけるコロナウイルス対策として対面形式での研修会の実施を中止と致しました。その為、残念ながらグループワークを中心に考えていた認知症研修会も開催を再度延期することとしました。現在は、アフターコロナにおける活動方針を検討しており、認知症OTパンフレット作成、オンライン交流会などを進めています。

認知症研修会の実施(延期)

令和3年度認知症チーム研修は、昨年度延期になった多職種での認知症ケアスキル向上を目的として、広島国際大学教授：大井先生に講師をして頂き、「帰宅欲求のある方へのケア」についての研修を企画していました。しかし、内容がグループワーク中心である事から、感染予防の観点において延期と致しました。



地域や行政、認知症家族の会との連携

他職種向けの認知症作業療法啓発パンフレット作成が完成し、行政や他職種に向けて配布を検討しています。

認知症と作業療法
～認知症の方が住みやすい街に～



一般社団法人 島根県作業療法士会
Shimane Association of Occupational Therapists

COVID-19（新型コロナウイルス）の影響による研修会のあり方

対面での研修会の開催が難しいため、県士会員同時での情報交換の機会が減っている状況を考え、定期的なオンライン相談会の開催を検討しています。将来的には、当事者の方や他職種にも参加していただける会にしたいと思っています。



島根Run伴への参加(出雲・大田・浜田・益田地区)

島根県作業療法士会会長が実行委員長となり他職種と連携しながら「認知症になっても安心して暮らせる町」を目指して認知症の人と家族の会・他職種・行政・一般の方と連携しながら活動しています。研修会への参加やイベント企画に協力させていただいています。



島根エリア

今後の展開

県士会員及び他職種、一般市民に向けて、COVID-19の影響を考慮した活動可能な方法の検討、実施

認知症に関する活動計画（概要）

（一社）岡山県作業療法士会では、現在認知症支援委員会として13名で活動している。
【事業目的】

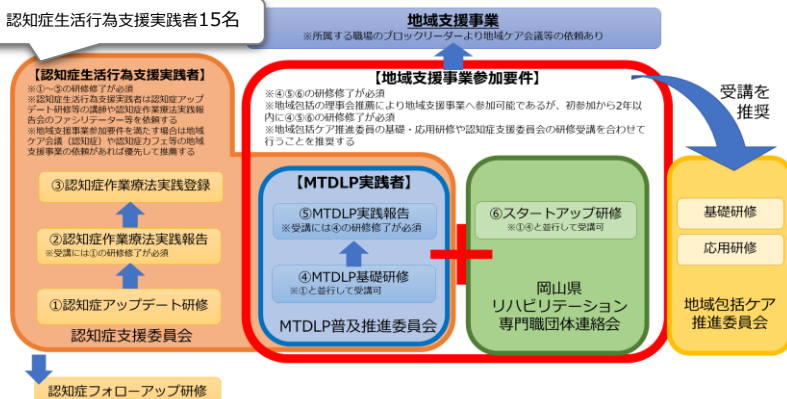
認知症の人が尊厳と希望を持って認知症とともに生きることや認知症になっても進进行を緩やかにすることに資する作業療法士を育成し、認知症があってもなくても同じ社会でともに生きる社会の実現に向けた地域貢献活動や調査・研究を実施する。

【活動内容】

1. 認知症アップデート研修の開催
 2. 認知症作業療法実践事例報告会の開催
 3. 認知症作業療法フォローアップ研修の開催
 4. 認知症作業療法のエビデンス構築のための実践事例の集積
 5. 行政、関連団体に対する認知症作業療法の広報活動と連携
 6. 会員による認知症関連活動に関する調査
 7. 認知症生活行為支援実践者の地域支援事業への参画状況を把握
 8. その他
- 以上の活動を進めている。

人材育成事業

認知症生活行為支援実践者及び地域支援事業参加要件 養成研修図



地域支援事業へ参画できる人材育成のため、今まで当士会が進めてきた**認知症生活行為支援実践者研修**に加え、新たに**認知症作業療法フォローアップ研修**を開催する予定である。また、MTDLP普及推進委員会、地域包括ケア推進委員会と協力して研修会を企画し、地域支援事業を実践レベルで行える作業療法士を育成していく。

関連団体との連携

昨年度は新型コロナウイルスの影響で関連団体との連携が図れないことが多かったが、zoomを用いて認知症の事例について多職種と一緒に考える研修会へ参加した。今年度は「**おかやま若年性認知症支援センター**」と連携し、活動への参加や活動の企画提案していく。

調査事業

昨年度、県士会員を対象に認知症支援の現状調査のアンケートを実施し、332名の回答を得た。認知症支援に関する地域活動への参加については、「**参加している」「参加したことがある」と回答した会員は86名（26%）**であった。今後、地域で活動している県士会員の更なる発掘と情報共有を行い、行政や関連団体とも連携し、認知症に関わる専門職としてアピールしていく。



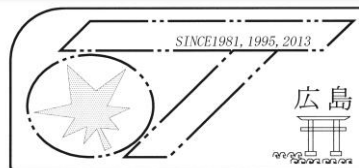
COVID-19（新型コロナウイルス）の影響・対応など

今年度の研修（認知症作業療法アップデート研修2回、GP報告会1回、認知症作業療法フォローアップ研修1回）は全てzoomを用いたオンライン研修を予定している。

認知症作業療法 活動報告 (概要)

広島県作業療法士会では、士会役員及び事務局員、大学等学術経験者・認知症疾患医療センター設置施設の会員で社会貢献部内に認知症OT推進担当を設けている。

認知症OT推進担当部員を中心に認知症生活行為支援指導者研修を運営し人材育成を軸とした「研修」、関係機関からの要請に基づいた会員の紹介などの連携、福祉祭りなどの活動を通じた啓発活動や相談を行う「地域支援」、大学などとの連携による新たな介入方法についての検討、検証などを行う「研究」の活動を展開している。

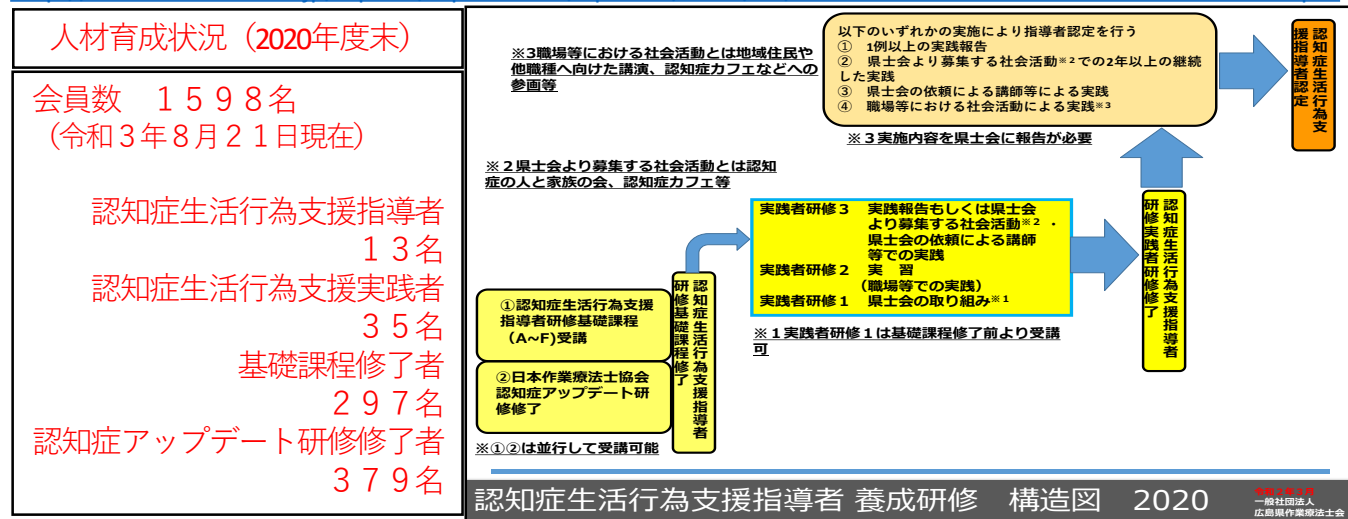


研修

認知症生活行為支援指導者研修基礎課程（テーマA～F）、実践者研修、認知症アップデート研修を二次医療圏域4か所に振り分け各1回開催する。研修は下記の運用マニュアル・研修シラバスをもとに運営している。

一般社団法人 広島県作業療法士会認知症生活行為支援指導者研修制度
運用マニュアル・研修シラバス 第2版

<http://hiroshima-ota.kir.jp/wp-test/wp-content/uploads/2020/03/97352d2b4ea847058b104a87acd372cb-1.pdf>



地域支援

- ・関係機関からの要請に応じた会員の紹介等、情報の提供や共有
- ・若年性認知症支援ネットワーク会議委員への会員派遣
- ・行政機関との連携による認知症カフェの運営への会員の派遣 → 計5回5名の派遣

研究

県立広島大学の域課題解決研究での連携

<https://www.pu-hiroshima.ac.jp/uploaded/attachment/15672.pdf>

https://www.youtube.com/watch?v=hOd_sGaXr-U&feature=emb_title

認知症の人と家族の会との連携事業

認知症の人と家族の会広島支部の若年性認知症のつどい「陽溜まりの会」への会員の派遣を中心に連携を行っている。2020年度は県内3か所の「陽溜まりの会」へ計18回延べ25名の派遣を行った。2021年度も継続して会員の派遣を行っている。

COVID-19 (新型コロナウイルス) の影響・対応など

感染拡大状況により認知症カフェ等地域での活動において施設の使用の制限などにより休止などの制限が続いている。また、福祉まつりなどでの啓発機会減少、地域支援事業に関わる会員が限られてしまうなどの影響が出ている。

一方で研修事業などWEBを活用により開催の担保が出来るようになった。

認知症に関する活動計画（概要）

山口県作業療法士会では、今年度は、①「認知症の人の生活行為への支援」をテーマとした研修、②認知症アップデート研修の2つの研修を企画しています。①では、認知症の人へのMTDLPの活用も含めて、当事者がやりたいと思う作業に焦点をあてた実践や、アセスメントに関する内容にて準備をしています。②については、これまでのカリキュラムに含まれていた基礎的な知識・技術についての内容に加えて、トピックスや事例等も含めて、より多くの参加が得られるよう企画をしています。

世界アルツハイマー・デーでのイベントの企画

①周南市立図書館でのイベント：周南市地域包括支援センター・周南市立図書館によるアルツハイマーデータに合わせたイベントが予定されています。これまでも、市民を対象とした「認知症にやさしい図書館」イベントで、講義・書籍の紹介・体操・相談コーナーなどを設け、企画運営に協力をしています。

②ライトアップ事業：今年度、認知症の人と家族の会山口県支部の事業として行うライトアップ事業で、海峡ゆめタワー（下関市）、金谷神社（萩市）の2か所に、参加協力予定です。



昨年度の海峡ゆめタワーでのライトアップの様子。山口県士会員が運営に参加しました。

認知症の人と家族の会との連携事業

今年度は、認知症の人と家族の会山口県支部の引き受けにて、10月31日（日）に山口県山口市のKDDI維新ホールにて「認知症の人と家族への援助をすすめる 第37回全国研究集会in山口」が開催されます。山口県士会からも企画運営に参加協力をしています。また、同日に開催予定の山口県主催の認知症カフェサミットにも、同様に実行委員として参加し、準備に協力をしています。



県士会員や県内養成校も、企画運営に協力しています。

COVID-19（新型コロナウイルス）の影響・対応など

今年度に入り、会員の所属する勤務先でも感染やクラスター発生が起こったり、通所・訪問といった事業所でもかなり活動の制限があるとの報告を受けています。委員会独自にとっている対策はありませんが、認知症の人や介護家族の健康と安全を守るための情報について、発信できたらと考えています。

会員に向けた情報発信の取り組み

今年度、認知症初期集中支援委員会では、認知症施策推進事業をはじめとする地域活動を知ってもらうため、山口県作業療法士会の会報「それっっちゃ山口」へのコラム掲載をはじめました。委員会からの発信だけでなく、認知症にかかわる会員からの相談受付等、双方向のやり取りができる体制に向けて、準備していけたらと思っています。

認知症に関する活動計画（概要）

徳島県作業療法士会では、独自に開発した介護予防ツール”ラシーサカード“の普及を図っている。今年度は、より地域への普及を図るため、パンフレットの作製を進めている。また、人材育成として会員向けに、研修の実施や情報交換の場を提供している。家族の会とも連携し、認知症フレンドリーマップの作製に協力する予定となっている。

世界アルツハイマー・デーでのイベントの企画

アルツハイマー月間に合わせ、会員向けに神戸大学の小川真寛先生に講師を依頼し、作業に焦点を当てた作業療法と題し、ウェブ研修を開催する予定である。

認知症の人と家族の会との連携事業

認知症の人と家族の会と徳島市との協働事業として、認知症フレンドリーマップを作製することが予定されている。その際、フィールドワークやマップ作成に協力する予定である。

会員向け事業

認知症研修をウェブで開催。運営側も不慣れであり、委員を講師として、アップデート研修の一部を行った。

また、認知症研修とは別に、会員同士の情報交換や交流を目的とした、認知症OTカフェをウェブで実施。コロナ感染症の感染拡大のため、他の作業療法士と話す機会が少なくなった会員にとって、自分の思いを話したり、他の作業療法士の悩みを聞いたりし、横のつながりが意識できた、良い機会となった。



ラシーサカード普及事業

ラシーサカード普及事業として、使用者研修の他に、阿南市と協力し、市内のサロンで配布されるDVDの作製に協力し、ケーブルテレビで放送するなどし、サロンのみならず、自宅でもラシーサカードが使えるようにした。

また、サロンの交流会やいきいき百歳交流会に講師として呼んでいただき、市民の皆さんに紹介・配布させていただいた。

今年度は、他の市町村や関係機関にラシーサカードを知ってもらうべく、パンフレットを作成し、配布する予定である。



認知症に関する活動計画（概要）

香川県作業療法士会では香川県や各市町からの依頼を受け、健康ステーション健康長寿講座や認知症予防講座に継続的な県士会員派遣を行っている。健康ステーション健康長寿講座は、高齢者にかかわる総合的な健康をテーマに行われており、認知症に関するテーマは非常に関心が高く、作業療法士による講座は毎回好評を得ている。人材育成としては、香川県長寿対策課とともに、2016年から認知症初期集中支援員養成事業を、初期集中支援に限らず広く地域実践につなげるため、認知症ケア人材育成研修補助事業として実施している。また、香川県からの委託事業として、3団体協力のもと、認知症予防キャラバン事業として、県民に対する普及と啓発、予防に取り組んでいる。

認知症ケア人材育成研修補助事業

県からの補助を受けて実施している。認知症アップデート研修を基礎研修に位置づけ、実践者研修、修了者研修と段階を踏む、認知症ケア人材育成研修として実施している。すでに基礎研修（認知症アップデート研修）を実施したが、新型コロナウイルスの影響で参加者は6名にとどまった。実践者研修と修了者研修については、Webによるリモート研修を検討している。初期集中支援に限らず地域への実践につなげられるよう、また、現状で人材育成が滞らないよう、創意工夫しながら進めていく予定である。



健康ステーション健康長寿講座

高松市からの依頼で、高松市健康ステーションにおいて、医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師等の専門職が健康・介護予防に関する講座をおこなっている。毎年、OTは認知症講座を担当している。参加者からは「毎日の生活のなかで教えて頂いた事を実行したいと思います。」などの嬉しい声を頂いている。



認知症予防キャラバン事業

香川県からの委託事業として作業療法士会、理学療法士会、言語聴覚士会のリハ職3団体が協力し「認知症キャラバン事業」を実施している。昨年度は地域の自治会や老人会から約50件の依頼があり、73名の講師（OT/PT/ST）を派遣し、延べ1,317人の県民の皆さまに参加いただきました。認知症予防の知識や運動を体験いただき笑顔が絶えない好評な事業である。今年度も概ね50件前後の派遣を予定している。



認知症に関する活動計画（概要）

愛媛県作業療法士会では、2017年度より認知症支援部門を立ち上げている。認知症地域支援事業として、東予・中予・南予地区の地区別にメンバーを配置し、県内各市町や関連団体より依頼を受け、認知症サポーター養成講座や、介護予防教室等へ出向き、作業療法士として地域支援に資する活動を行う。また、「認知症の人と家族の会」との連携を図り、スタッフの派遣等を行う。

県士会員に向けては、アップデート研修を開催し、認知症に対する理解の推進を図り、どの領域でも期待される役割に応えられる作業療法士の養成を目指す。

認知症地域支援事業

一昨年度、「三浦保」愛基金の助成を受けて、認知症予防・啓発を目的とした「えひめカンカン 体操」DVDを作成した。そして、愛媛県下全ての社会福祉協議会・地域包括支援センターへDVDを配布し、説明会を実施している。

次に、県士会員の所属する施設にもDVDの配布を行っている。今後は地域支援事業の一助としてDVDが活用できるように、県士会員に対し、指導者養成研修を実施し、地域で活躍できる作業療法士を養成していく。



認知症にやさしい地域づくり講演会

認知症地域支援事業の一環として、四国中央市では、地域包括支援センターと協同し、「認知症にやさしい地域づくり講演会」と題した、認知症啓発・予防事業を行っている。その中で、地域で使いやすい形で認知症予防体操を行うため、地域包括支援センターと認知症支援部門にて四国中央市版えひめカンカン体操のDVD作成を行った。地域住民には今後お披露目会を実施する予定である。



COVID-19（新型コロナウイルス）の影響・対応など

新型コロナウイルス感染拡大を懸念し、各地区の積極的な活動は控えている。また、県士会員に向けて、認知症に対する理解の推進を図るためのアップデート研修を毎年行っているが、昨年度は中止した。今年度は、WEBでの開催が出来るように準備を行っている。

認知症サポーターキャラバンメイト

県士会における認知症地域支援部門の活動の一環として、メンバーは認知症サポーターキャラバンメイト養成講座の受講を予定している。作業療法士として専門的な知識を持ち、アウトプット出来ることは勿論のこと、行政と協働できる作業療法士を増やしていく。

認知症に関する活動計画（概要）

高知県作業療法士会では、2017年度より認知症の人に対応できる人材育成と作業療法士の地域参画を目的に、地域連携部認知症班として活動を行なっている。

新型コロナウイルス感染対策を講じながら認知症の人への対応力の基礎作りとして、アップデート研修の実施を行っている。地域事業では昨年度までに県内の認知症カフェの情報収集を行い、今年度より班員が運営に携わり認知症カフェを開催している。今後も感染状況に応じて、地域活動での人材育成と介護予防事業に作業療法士を派遣することを視野に入れ活動を進めていく。

認知症カフェへの参画

2021年6月より偶数月に開催している。認知症の人に携わる方を支援する目的で開始。1回目は支援する方の情報交換会、2回目は認知症に見られる症状と対応方法をテーマに実施。テーマに限らずその場で話題に上がった内容に応じて情報交換や助言を行っている。認知症カフェのロゴを作成し活動のPRとしている。今年度は全5回を予定している。



アップデート研修の実施

期 日：2020年2月13日（土）

場 所：高知県作業療法士会事務局 WEB研修会

参加者：23人

2021年度は2022年2月に開催予定。



COVID-19（新型コロナウイルス）の影響・対応など

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、班会や研修会はリモート形式で開催。2021年度も班会はWEB会議を実施しつつ、研修会に関しては昨年度のWEB研修会の利点と欠点の振り返り、県下の感染状況に応じて形式を決めていく。

認知症予防事業

新型コロナウイルス感染拡大の影響により地域で認知症事例が増えていると感じているが、活動を共にする各団体との協業が停滞している。以前には、介護予防に関する団体と協業する企画もあったことから、withコロナ、afterコロナの視点を持ち予防的な関わりを持てるよう模索していく。

認知症に関する活動計画（概要）

福岡県作業療法士会では、保健福祉部内に認知症作業療法推進委員会を設置し、保健福祉 部理事を含めて6名で活動をしている。活動は、「認知症アップデート研修」をはじめとした研修の開催、会員に対する最新知識の普及活動を実施している。今後は、地域活動などとのつながりを深め、並行して、地域活動が出来る作業療法士の育成、県士会員のつながりの強化を図る活動を継続的に実施していきたい。

会員向け研修事業

令和2年11月17日、25日と2日間に分けて、認知症アップデート研修をオンラインで開催し、64名の会員が参加した。認知症アップデート研修は、これまで4年間で5回開催し、延べ384名の修了者となった。今年度も、11月にオンラインで開催予定としている。

また、今年度は、応用的な研修として、地域における認知症支援に関する内容を企画し、オンラインでの開催を予定している。

市町村事業などへの協力体制の構築 事業

各市町村での協力体制の構築を目指し、認知症関連の地域事業の状況把握を適宜実施している。また、行政から協力依頼があった際は、スムーズに人材派遣が行える体制作りを検討している。現在も認知症サポーター養成講座研修の講師派遣等を行なっている。

「福岡オレンジパートナーズ」への登録の検討

福岡オレンジパートナーズとは、認知症の人とその家族、企業、団体、医療。介護。福祉事業者、行政で構成し、認知症について自主的に「知る」「考える」「つながる」「行動する」ためのコンソーシアムであり、認知症になっても自分らしく生きるために何ができるかを考え、実際の取り組みにつなげることを目指している。委員会内で本事業について担当課長による説明会を実施し、現在、団体登録に向けて動いている。



認知症関連事業の会員の実態・意向調査の検討

会員の認知症関連事業の実践者や意向の把握、その繋がり作りを目的として、Webアンケート調査を予定している。アンケート集約をもとに、将来的には協会内で認知症事業の人材バンク・ネットワークを構築し、育成しながら各市町村事業に派遣・協力できる体制の整備を目指している。

認知症・草の根ネットワーク(北九州)への協力

認知症・草の根ネットワークの活動は主に認知症カフェモデル事業の運営など。現在、2名の作業療法士が理事として活動をしている。

COVID-19（新型コロナウイルス）の影響・対応など

委員会活動や研修事業は全てオンラインで実施している。オンラインの特性を生かしながら、収束後は、スムーズに対面事業に移行ができるように整備をしていきたい。

認知症作業療法 活動計画（概要）

- ・佐賀県作業療法士会では、OT協会（制度対策部認知症班）の重点活動項目に沿った取り組みを継続・発展させる為に、地域包括ケア推進部の中に認知症支援委員会を設置し、16名の委員で連携を図りながら取り組みを進めている。認知症に関連した研修や派遣事業を通して会員の資質を向上させ、佐賀県での認知症に対する支援が出来る事を目指している。
- ・佐賀県作業療法士会では県・市町村からの依頼を受け、認知症初期集中支援事業、認知症予防事業、認知症カフェ事業に県士会員を派遣している。
- ・その他、佐賀県5地区に当委員会を担当者を設置し、各地区における認知症関連事業と派遣実績の現状把握、及び認知症関連の依頼に応じた講師及び協力派遣を行っている。

世界アルツハイマー・デーでのイベントの企画

- ・認知症の人と家族の会 佐賀県支部と佐賀県が協力して2018年から毎年、認知症啓発イベントが開催されており、県士会員も協力。認知症支援のシンボルカラーであるオレンジにライトアップされる。今年度は数カ所の施設をライトアップする方向で調整中。
- ・新たに江北町からアルツハイマー・デイに合わせたイベントの協力依頼があったが、**COVID-19**の影響で対面での開催は中止となった（ライトアップは実施）。



佐賀大学美術館 ライトアップ

認知症の人と家族の会との連携事業

- ・認知症の人と家族の会 佐賀県支部が主催する認知症カフェが佐賀市、伊万里市、鳥栖市で毎月開催されており、それぞれに県士会員2名を派遣。
- ・2020年度、認知症の人と家族の会が主催する「つどい」において自宅で出来る運動と脳トレをテーマに講師依頼があり県士会員2名を派遣。今年度は、江北町で開催される「家族のつどい」に県士会員2名を派遣予定。



「つどい」でコロナ禍でも自宅で出来る運動や脳トレをテーマに講師

COVID-19（新型コロナウイルス）の影響・対応など

- ・県士会でZoom契約を行い、Web会議の実施、各研修会もリモートで開催しながら各事業を進めている。
- ・今年度、県士会組織に特設でICT委員会を設置し、研修案内、振込方法、リモート研修システムの充実を目指して検討中。
- ・認知症カフェでは、人数制限や時間短縮など感染予防を徹底し開催している地域へ派遣協力を行っている。
- ・今年度は、コロナ禍で臨床実習等への影響を考慮し、早めに新会員の方々が学びの場に参加できるように計画した。



認知症カフェの様子

佐賀県・市町からの委託事業及び認知症研修

- ・佐賀県健康福祉部からの委託事業「認知症ケアに携わる者のリハビリテーション研修会」では、2016年から毎年計10回の研修会を行い、2020年度は延べ452名の受講者であった。今年度は、地域向け、行政向けの内容を盛り込んだ形で企画を進めている。
- ・認知症初期集中支援事業に佐賀・唐津・伊万里市よりチーム員推薦依頼があり5名を推薦。
- ・鹿島市、江北町より認知症カフェ年6回開催の委託があり毎回5～7名を派遣。小城市からは認知症カフェ（年12回）、若年性・軽度認知症サロンへの参加者の評価（年4回）の委託があり毎回2～5名を派遣している。
- ・認知症OTアップデート研修を実施し、受講者は19名（2021）。今後は修了書を発行した県士会員を対象に、認知症OTエキスパート研修を計画していく予定。

認知症作業療法 活動報告（概要）

長崎県作業療法士会では、制度対策局内に認知症作業療法班を設置し、県士会会員の人材育成等に取り組んでいる。

又、2015年より長崎県福祉保健部委託事業としてナガサキリハビリテーションネットワーク、医師会、理学療法士協会、言語聴覚士会、作業療法士会の5団体共同にて「地域包括ケアに資する地域リハビリテーション専門職認定研修会」を実施。

県・市町村の事業については相談窓口を長崎県リハビリテーション支援センターに1本化し、修了者の中から各士会理事会協議にて推薦し対応。



地域リハビリテーション専門職認定研修会

世界アルツハイマー・デーでのイベントの企画

県と公益社団法人認知症の人と家族の会長崎県支部は、毎年9月21日の「世界アルツハイマーデー」及び9月の「世界アルツハイマー月間」に共同で、認知症の理解を深めていただくための普及啓発を目的として県内各地で、昨年度に引き続き認知症のイメージカラーであるオレンジのライトアップを実施。

認知症初期集中支援事業

市町村からの依頼を受け、認知症初期集中支援チーム設置のアドバイザーとして、県士会会員を派遣している。



認知症予防事業

地区毎で実施している市民向けの作業療法啓発事業等において、認知症予防をテーマに実施。

市町村からの依頼に対して各圏域ごとに設置されている広域リハセンターを窓口として、従事者の派遣調整がなされている。又、従事するスタッフを対象として地域包括ケア対策部介護予防班により認知症予防に関するスキルアップ研修を実施。



認知症カフェ事業・プロボノ活動

長崎県認知症の人家族の会世話人、地域の家族の会メンバーとして活動したり、勤務する事業所がカフェ事業等に参加している作業療法士は存在するが県士会として情報を把握できていない。



会を支える地域の皆様と記念撮影

今後の展開

- ・各市町村において行政からのニーズに対応できる県士会員の育成
- ・会員が興味を持って持続的に参加できる研修システムの検討
- ・県内の認知症作業療法に関する取り組み事例をGPに落とし込むスタイルでの収集

認知症に関する昨年度下半期の活動報告と今後の活動計画（概要）

熊本県作業療法士会では、平成27年度から活動を開始した認知症プロジェクトチームから令和2年度より事業部認知症班として活動を行っている。また、このメンバーが中心となって認知症アップデート研修を専門教育部で行っている（表1）。昨年度からオンライン研修となり、運営や参加する県士会員にとっても手探り状態での開催となったが、例年通りの参加者数だった。また、認知症の人と家族の会（熊本県支部）との交流も地道に活動を継続し、作業療法士の参加は無くてはならないものとなっている。さらに、この会が主催する世界アルツハイマー・デーに開催される記念講演会では作業療法士が講演し、熊本県作業療法士会で作成した冊子「認知症の人への関わりヒント集」とそれを動画にしたURLとQRをチラシにして会場で配布予定である。

	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
基礎編	122名	82名	81名	76名	32名	69名
応用編	—	60名	57名	中止	30名	開催予定

（表1. 認知症アップデート研修参加者）

認知症の人と家族の会との連携事業

毎月第3日曜日午後、認知症の人と家族の会（熊本県支部）が行っている当事者及び家族の交流会「みどりの小路」に参加している。毎回、約8組のご家族が参加されている。まずは、ボッチャなどのゲームを楽しんだ後に当事者と介護家族に分かれミーティングを行っている。その中で熊本県作業療法士会会員は、体操やミーティングの補助などを行っている。



動画作成事業

実話を元に、当事者の「想い」に焦点をあてた動画を作成した。これを地域包括支援センターや認知症に関する研修など様々な場面で活用してもらいたいと願っている。今回紹介する「徘徊」も当事者には理由があり、駅に行きたいけど、認知症により駅に行く道筋を忘れてしまい、ただ単に「迷子」になっているだけかも知れない。大切なことは周りの方々が認知症の人の想いを知ろうとすることであり、それが「共生」への一歩となるのではないかと考える。このDVDが認知症の人やその家族が不安なく自分らしく過ごせることに繋がれば幸いである。

関係機関へのDVDの配布と県士会ホームページへの掲載を予定している。



（非売品）

認知症作業療法 活動計画（概要）

大分県作業療法協会では、認知症アップデート研修を中心に認知症支援にかかる人材育成に取り組んでいる。例年であれば研修会の内容を3段階に分け、最終的にカフェの運営も行っている。昨年度は新型コロナウイルスの影響を受け、2段階のWEB研修を実施した。今年度もWEB研修が中心となっているが、事例検討を積極的に行う予定である。また認知症予防をテーマにしたリーフレットを作成し、今年度中の発行を予定している。

認知症アップデート研修 |

2020年10月9日「作業療法士として押さえておきたい評価と介入のポイント」と題しWEB研修会を実施した。日本作業療法士協会作成「認知症作業療法評価の手引き」を用い、評価の標準化とその結果を支援に結び付けるため思考過程の整理を行った。30名が参加した。

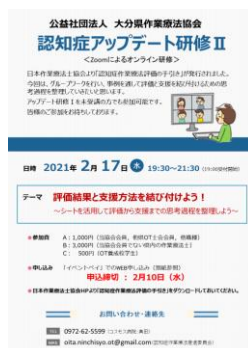
今年度は6月27日に開催し、参加者23名であった。



認知症アップデート研修II

2021年2月17日「評価結果と支援方法を結び付けよう」と題した研修会を行い、13名が参加した。事例を用いてグループワークを行い、評価と支援を結びつける思考過程の整理を行った。

今年度は10月に事例検討会を予定しており、研修Ⅰの受講者のうち、3名が事例報告を予定している。



リーフレットの作成

サロンなどの集いの場で活用するためのリーフレットを作成中である。認知症予防をテーマにしており、講座などで配布し啓発活動を行っていきたいと考えている。



認知症支援に関する講師派遣

大分県社会福祉介護研修センターからの依頼で、令和2年度介護予防推進事業に係る「介護職員現任者研修」に、認知症作業療法推進委員会から講師を派遣した。今年度も派遣予定である。

リーフレットイメージ

認知症に関する取り組み

宮崎県作業療法士会では、平成30年度より地域関連事業に重点的に取り組む「地域包括ケアシステム推進部」を新設し、その一部門として「認知症対策担当」を設け、認知症関連事業への取り組みを行ってきました。

昨年度はCOVID-19の影響で、研修会等が中止となってしまいましたが、今年度はコロナ禍という状況を考慮し、ZOOMを用いた研修等を通して認知症作業療法の普及啓発＆人材育成のためのシステム構築を目的に、下記の事業に取り組む予定としています。

世界アルツハイマー・デーでのイベントの企画

認知症の人と家族の会 宮崎県支部主催「世界アルツハイマーデー記念講演会」

日 時：令和3年9月11日(土) 13:30-16:10

場 所：宮崎市総合福祉保健センター

内 容：「若年性認知症の初期を考える」

基調講演 講師：藤元 ますみ 先生（けんなん病院副院長）

シンポジウム：長谷川聖子（福祉サービス事業所「ポノポノ」管理責任者）、高松孝綱（小規模多機能ホーム「ゆらり青葉」介護支援専門員）、甲斐賢一（「協和病院」作業療法士）、生田みいこ（若年性認知症コーディネーター）

認知症の人と家族の会との連携事業

「若年性認知症の人の本人交流会への参加」

認知症の人と家族の会により毎月1回開催されている、若年性認知症の人の本人交流会へ定期的に参加。

認知症アップデート研修

日 時：令和3年10月30日(土曜日) 14:00-17:10

開催方法：ZOOMを使用したオンライン研修

内 容：講義1 「世界及び日本における認知症の課題」 講師：岩切 良太

講義2 「認知症の障害の本質と認知症原因疾患への理解」 講師：押川 真唯

講義3 「BPSDの原因・背景及び障害構造の理解」 講師：桜川 淳也

講義4 「認知症OTにおけるアセスメントとマネジメント」 講師：道本 純子

認知症作業療法ステップアップ研修

令和4年1月22日(土) 14:00-17:00

開催方法：ZOOMを使用したオンライン研修

内容：「重症度に応じた認知症の作業療法(仮)」

講師：田平 隆行 先生（鹿児島大学医学部保健学科 基礎作業療法学講座 教授）

認知症初期集中支援事業への参画

県内、5市町村で作業療法士がチーム員、または初期集中支援チーム検討委員会委員として活動中。

認知症に関する活動計画（概要）

鹿児島県作業療法士会の地域リハ推進部には2014年より「かごしま認知症OTネットワーク」という下部組織が配置されており、約20名のネットワーク員とともに認知症に関する研修会の実施や地域での催し物への参加などを行ってきました。2020年の活動内容としては、「認知症の人への作業療法の実践 鹿児島県の今 in zoom」という交流会と生協コープかごしまからの認知症対策に関する依頼などが挙げられます。

交流会・研修会

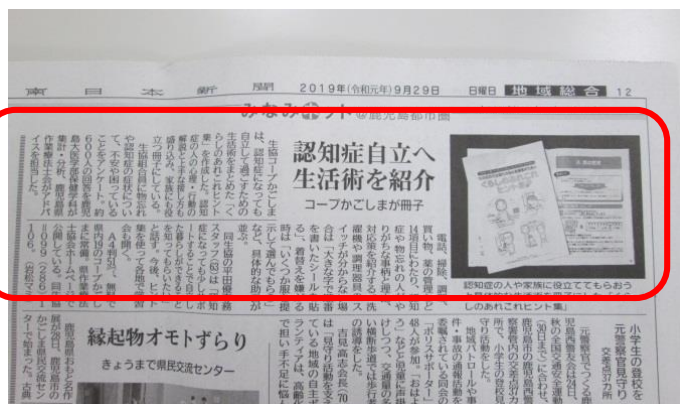
認知症の人に関わるOTが、実際どのような支援をしているのかを急性期リハ、回復期リハ、療養型病床群、訪問リハ、通所リハ、介護老人保健施設等の様々な分野の人で語り合う交流会を開催した。本年度もWEB研修会を開催予定。

生協コープかごしまへの協力事業

生協コープかごしまから「認知症に負けない暮らし（健康）づくり」とのタイトルで、鹿児島大学保健学科と鹿児島県作業療法士協会が提携し取り組みを行っています。

具体的な生活術を冊子にした「くらしのあれこれヒント集」を作成。鹿児島大学の田平教授を中心に、かごしま認知症OTネットワーク員で作成した。作成過程では、認知症家族の会鹿児島支部に原稿をみて頂き意見をもらいました。完成した冊子には、感想も寄せられています。また、地方紙（南日本新聞）にも取り上げて頂きました。

「くらしのあれこれヒント集」をテキストに、生協組合員へ講座を鹿児島県全域で開催予定しております。



今後の展開

- ・ 認知症アップデート研修事業の継続
- ・ 生協コープかごしま協力事業の拡大

認知症に関する活動計画（概要）

2021年度より精神・認知症施策推進部として認知症に関する活動・計画を実施。主な取り組みとして、①認知症ケア資質向上のための研修事業の企画、②認知症の人と家族の会との連携強化、③県や市町村からの委託事業や要望への対応に取り組んでいる。各事業に関わりながら認知症に携わる作業療法士同士が繋がれる場づくりを図っていくことを目指し活動を行う。

世界アルツハイマー・デーでのイベントの企画

本年度は、世界アルツハイマー月間に向け、オレンジガーデニングプロジェクトを県士会広報や認知症施策推進部での広報を行い、認知症啓発のシンボルカラーオレンジの花で沖縄のまちや施設を彩る活動に取り組んでいます。この取り組みを通じて広く県民に認知症へのかかわりに関心を持っていただきたいと考えています。



認知症の人と家族の会との連携事業

本年度はCOVID-19の影響で、認知症カフェへのボランティア派遣が実施できずにいます。今後はWeb環境による認知症カフェ等新たな運営方法等で支援に取り組めるよう企画中。

COVID-19（新型コロナウイルス）の影響・対応など

多くの研修会等企画するも中止せざる得ない状況が発生している。本年度、県より委託を受けていた認知症本人ミーティングは、COVID-19感染蔓延のため中止、次年度に実施延期となった。現在は会議、県などとの打ち合わせもZoomを活用行う状況。今後、研修会等もZoom等活用して行う予定。

今後の事業

- ・ 認知症の人と家族の会との連携強化
- ・ 認知症の方への評価研修（Webで行う）
- ・ 認知症に関わる作業療法士同士が繋がれる場を作る。
- ・ ナイトカフェWeb版の模索、開催
- ・ 認知症キャラバンメイトの把握と活動についての状況把握

